

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年9月18日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 32名	(依頼数) 45名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870600297
事業所名 (ユニット名)	グループホーム フルーツの家1階 1ユニット
記入者(管理者) 氏名	福永 智子
自己評価作成日	令和元年8月5日

<p>【事業所理念】</p> <p>和やかで笑顔あふれる生活づくり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>カルテに介護計画のサービスの内容の実施状況を記録したり、変化や気付きなどを赤のペンで記入してみんなで情報を共有することに取り組んできたが、変化や気付きなどを赤ペンで記入することは出来ているが介護計画の実施状況の記録が十分出来ていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所開設から19年が経っているが、建物内は明るく清潔感があふれ、観葉植物や花もあり、居心地の良い空間が作られている。ユニット間の交流があり、また関連するサービスとの交流も行われ、利用者にとっての「我が家」の中で様々な他者との心の交流が見られている。建物内に認知症カフェを開催する場所があり、外部の人の出入りもしやすい雰囲気が備わっている。地域の介護や福祉の拠点として機能し、相談や研修機能も充実している。日々の利用者の状況に応じた分析と検討、介護に関する記録の整備に取り組み、利用者の変化や職員の気づきについて記録ができるよう取り組んでいる。</p>
---------------------------------------	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思い暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人さんや家族の方が意向を言いやすいような雰囲気に心がけており、得た情報はフェイスシートやアセスメントシートを利用し、職員間で情報の共有を行っている。居室の変更やベッドを布団に変更する等、安全に生活できる環境づくりをしている。	○	/	○	昔の生活、今の生活、今できることなどの情報を把握し、シートにまとめている。また、担当者が似顔絵を描き、利用者の人となりユニークに視覚化することもできている。新たな情報を入手すると赤字で加えることで内容は豊かなものになっている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	家族の方に相談したり、本人さんの表情や言葉から思いをくみ取れるように努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族さんや友人の方が面会に来られた時に、情報が得られるように努力をしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して、職員間で共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	カルテの中にフェイスシートやアセスメントシート、介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して職員間で共有している。また、同一法人内の他事業所を利用していた方に関しては、情報を提供してもらっている。	/	/	○	利用者や家族から得られた生い立ちや性格、趣味や職業、生活リズムなどの情報をフェイスシートやアセスメントシートにまとめている。基本的には6か月ごとに情報の見直しを行い、新たなフェイスシートなどを作成している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の生活の中で気付いたり感じたことを申し送り時等を利用して話し合ったり、フェイスシートやアセスメントシートなどに記入して現状を把握するように努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。又、病状の変化についてはカルテに記載して、医師からの指示は、赤字で囲みわかりやすくしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	カルテや入居者情報、排泄記録表等を用いて把握しており、毎朝の申し送りでも伝えて行っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カルテにアセスメントシートを入れており、気づきや状態の変化などを記入している。家族さんから得た情報も記入して、朝の申し送り時に伝えている。	/	/	○	把握した情報を基にして、日々の関わりの中で観察できたことを「入居者情報」や「摂取及び排泄記録表」にまとめて朝・夕の申し送りで共有し、複数の職員で検討を行っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行い、朝の申し送り時等を利用して検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	気づきや状態の変化はアセスメントシートやケアプラン等の空スペースに記載するなどして、介護計画書の見直しに活かしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	介護計画書やアセスメントシートをカルテに入れており、気持ちや思いを空スペースに記載するなどして検討している。	/	/	/	利用者や家族、管理者、計画作成担当者、介護職員などが集まり一緒に話し合うことで介護計画を作成している。家族が出席できない場合は事前に文書で意向を確認している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、介護計画書の見直しをしようとしている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意向を把握しにくい方に関しては、家族さんに相談したり、本人さんの表情や言葉からくみ取れるように努力している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族さんや地域の人が意向を言いやすい雰囲気や心掛けており、得た情報などを介護計画書に落とせるように努めている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	介護計画は個人ファイルの経過記録の中に綴じており、常に確認しやすいようにしている。毎月ケアの実施状況を確認し、6か月を基本としてモニタリングを行っている。利用者の日々の様子については、言葉や行動、エピソードなどを細かく記録している。今後はさらに支援している職員が気がついたことや思ったこと、アイデアを記載していくことを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	3ヶ月から6ヶ月でモニタリングをして申し送り時等を利用して確認している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	カルテや入居者情報に記入している。又、受診状況や思ったことなどはAP覧も利用している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	カルテのAP欄に記入するように努めている。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行っている。	/	/	/	計画の期間ごとや退院時など状態の変化があった時に、利用者ごとの担当者がアセスメントを行って変化に対応している。また、毎月モニタリングを行って目標達成状況を数値で表している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院、退院等の時等、状態の変化時は、適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞いている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	適宜、ケース検討会やサービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、その都度介護計画書の見直しをしている。	/	/	/	サービス担当者会議を適宜実施し、6か月ごとの計画見直しを基本としている。さらに、退院後の場合は3か月の段階においても見直しを行っている。会議に出席できない場合は、議事録を回覧したり、大切なことは申し送ったりするなど、情報が確実に伝わるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃から、意見を言いやすい雰囲気作りや心掛けている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	職員会議や行事ごとのある日の申し送り時等を利用してしている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を確認してもらったり、大切なことは、申し送り時に入居者情報に記載して、全員が確認できるようにしている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	回覧を確認してもらって、サインをもらっている。又、申し送り時に伝えている。	/	/	/	「入居者情報」シートを活用し、利用者に関する情報を朝夕の申し送り時に伝えている。医療的な情報の記録については、赤字の枠で囲むなど、確認しやすいよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り時にすべての職員に情報が伝わるまで繰り返し伝えている。又、回覧や議事録などに確認のサインをもらうようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その人に合わせて、その日をどう過ごしたいかを尋ね、出来る限り利用者の方のペースに合わせてるように努めている。				日々の気分にに合わせて飲み物が選べるようにし、衣服も自分の好みのものが選べるようにしている。散歩やカレンダー塗り、パズル、生け花など、利用者個々の一番したいことを楽しみながら取り組んでもらうようにしている。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	10時の水分補給時には、コーヒーや紅茶等の中から自己決定できるように努めている。更衣する時は居室のタンスの所に行つてその日に着たい服を選んでもらっている。			○		
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	質問はわかりやすく、相手が言えるような声掛けをするように心掛けている。会話の中でも、思いや希望が伝えやすいような雰囲気づくりに努めている。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	「ちょっとまってよ。」の言葉を禁句として、ひとりひとりの思いを大切に寄り添うように心掛けている。体調が悪い時は無理をしないように心掛けている。入浴の時間などは、利用者さんの希望を確認している。					
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりにしている。	○	人生の先輩として人格を尊重して関わりを持つように心掛けている。					○
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人さんの言葉や表情から想いがくみ取れるように努めている。スタッフからも何々ですか?と具体的に聞き表情などで判断している。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けている。		○	◎	○	職員は人権や尊厳について、研修で学ぶ機会があり理解して共有しており、プライバシーの尊重を常に意識しながら日々のケアに努めている。トイレ誘導などの際には、周囲にわからないようさりげない声かけを徹底している。訪室時には必ずノックや声かけをしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けており、職員同士でも声を掛け合つて常に気をつけるようにしている。				○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	○	声掛けの仕方を工夫するなどして、自尊心を損ねる事のないように、その人らしさを尊重するような対応を心掛けている。排泄時も外でそっと見守りしている。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る時は、必ず、ノックや声掛けをしている。又、他の利用者さんが間違つてはいらないように気を付けて見守り声かけなどを行っている。				○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、職員同士も声を掛け合つて注意をしている。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者さんに助けを求めたり教えてもらった時は、感謝の言葉やお礼を声や態度に出して伝えるように努めている。出来る限り一緒にできる事ははしてもらって、感謝の気持ちを伝えている。				仲の良い利用者が近くに集まり、他の利用者の移動を手伝うことや、場所を離れようとする行動を職員にも伝えてくれる状況がある。仲間と一緒にぞうきん作りやパズルゲームなどを行つて楽しい時間を過ごせるようにしており、利用者同士良い関係が築けるよう支援している。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合つて暮らしていくことの大切さを理解している。	○	日々の生活の中で、職員が間に入り、状況に応じて見守りを行い、利用者さん同士、コミュニケーションが図れる機会を多く持てるように努めている。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらつ場面をつくる等)。	○	仲の良い、気の合う人が穏やかに過ごせるように、また、孤立する利用者さんがいないように、ホールでの座席に気を付けて配置している。行事等の時は、世話役の人に前もつてお願いをして、円滑に物事が進むように努めている。					○
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	状況に応じて、職員が中に入り、場所や雰囲気を変えたりしている。居室でゆっくり話を聞く時間を作っている。					

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人さんとよくお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人さんとよくお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの場所にドライブなどで出かける事はあるが、知人や友人に会いに行くのは少ない。知人や友人の方が面会に来られた時は、一緒に過ごせるように配慮している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会に来られた時は、居室やホールでゆっくりと我が家のように過ごせるように配慮している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	その人に合わせて、出来る限り利用者の方のペースに合わせてるように努めている。併設の通所介護が外出の際に、乗車定員に余裕があれば、声を掛けてもらい一緒に外出もしている。外出が難しい時は、庭を散歩したり、花を見たりしている。畑を見に行ったり、花の水やりなども行っており、野菜の収穫も行っている。	○	×	○	近くの保育園の運動会に招かれたり、花見や初詣など季節を感じる場面で外出したりしている。重度の利用者を含め、併設のデイサービスに行ったり、テラスに出て外気浴を行ったりして気分転換を図るようにしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	毎月、認知症サポーターやボランティア、地域の方の協力を得て、認知症カフェに参加させてもらっている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調の良い時は庭に出て散歩をしたり、花を見たりしている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	利用者さんの希望で買い物に出掛けたり、家族の方の協力を得て自宅へ帰ったりできるように支援している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めている。	/	/	/	利用者個々の今できることを把握し、アセスメントシートの中の「できること」に記載して職員間で情報を共有している。利用者には洗濯やぞうきん作り、調理の下ごしらえなどを取り組んでもらっており、職員は極力手伝わず見守りを心がけている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めており、その人に合った声掛けや支援を心掛けている。看護師や医師にも相談している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、その人の持っている力が発揮できるように声掛け見守りを行っている。家事全般が得意な人には、日課としてしてもらっている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握するように努めている。	/	/	/	ホールの花瓶に花を活けることや、お茶をたてること、下膳や配膳などの手伝いをするなど、利用者個々に役割や出番を作るようにしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握して、日頃から、利用者さんが何をしたいかを常に考えながら支援している。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の観光スポットを見に季節ごとのお花を見に行ったり、お祭り、初詣などに行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	入浴時や更衣の時は、なるべく服を選んでもらうようにしている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら、髪をといってもらったりしている。	/	/	/	衣服の乱れや食事の食べこぼしなどは、周囲に気づかれないようにさりげなくカバーしている。重度な利用者を含め、毎日好みの衣服に着替えてその人らしさが保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	出来るだけ利用者さんの希望がかなうように、本人、家族さんと相談して用意して、居心地良く過ごせるようにしている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族さんの情報や普段の何気ない会話の中から把握して、支援できるように努めている。好きな色や柄などもできるだけ聞くようにしている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族さんと本人さんと相談して、季節や行事の合わせて、その人に合う服を着るようにしてもらっている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	一人一人の思いやプライドを大切にしながら、さりげなく声掛け見守りしながら、支援している。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ホームにも月1回美容師さんが来てくれているが、希望のある方は、家族さんに協力してもらって望みの美容室へ行っている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人さんの思いを大切に、その人らしさが保てるように家族さんの協力も得て支援している。	/	/	○	
		g	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	社内研修で学べる機会があり、理解できている。	/	/	/	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	社内研修で学べる機会があり、理解できている。	/	/	/	グループ内の栄養士が献立を作り、ユニット内にある調理場で調理される様子を見ることができ、匂いを楽しむことができる。利用者には調理の下ごしらえや下膳などをできる範囲で手伝ってもらっている。献立や味付けに関する意見や感想を利用者同士の会話の中から拾い、職員が栄養士に伝え、献立や味付けなどに反映させている。利用者の状況に応じてスプーンやフォーク、ストローなどを使い、一口大のカットや食材をすりおろすなどの食べやすさについても工夫されている。職員は利用者と一緒に同じ食卓を囲んで食事しながら、利用者のサポートをしている。重度の利用者を含め、献立の会話をしながら調理ができ上がるのを心待ちにしている。栄養士が利用者の希望を踏まえ献立を作成しており、職員間で定期的に栄養バランス等について話し合っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食事作りは厨房スタッフがやっているが、料理の下ごしらえ等は、一緒に手伝ってもらっている。片付けや洗ひ物は、出来る利用者さんが時々してくれている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝ってもらった時には、感謝の気持ちを伝え、一緒に喜んでる。又、ホールには、スタッフが献立を手書きし、利用者さんとも食事を楽しんでもらっている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	カルテに記入したり食事確認表を作っており、いつでも確認できるようにしている。食べれないメニューがあれば、その都度変更している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立は、栄養士さんが栄養面や季節の物を考慮して立ててくれている。お正月、節分、雛祭り、敬老の日などは折詰弁当を提供している。利用者さんの好みや苦手な物、アレルギーにも配慮してくれている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	○	一人一人の食事の確認をしながら、彩や添え物に工夫して提供してくれている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食器は、滑りにくい物を使っている人もいる。主食を見えやすくする為、色のついたお碗を使用して自分で食べられるようにしている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も利用者さんと同じ食卓を囲んでなるべく一緒に食べるようにしている。介助のいる利用者さんのそばで食べたり配慮をしている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	その時の献立を伝えて、食事のでき具合や、臭いを伝えながら会話をしている。皆が過ごすホールと厨房が近いように設計されており、厨房内も見えやすい。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士が栄養バランスを考えて献立をたててくれている。水分量は、一日の摂取量を個人別に記録している。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	摂取及び排泄記録表に、食事や水分量を記入し、必要量が確保できるように心掛けている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している。水分が摂りにくい利用者さんには、コーヒータンブラーなどに変更して摂取してもらっている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	利用者さんや職員の希望をお願いして、栄養士さんが献立をたててくれている。	/	/	◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	厨房スタッフが、栄養士さん指導の下、気を付けてしてくれている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	社内研修で勉強をする機会があり、食後には、口腔ケアを行うように努めている、				毎食後の口腔ケアを行い、利用者個々の口腔内の状況については把握しており、常に口腔内の清潔を保ち健康状況が継続できるよう努めているほか、月2回の訪問歯科診療を受けられる体制を整えているなど、万全を期している。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	定期的に歯科往診があり診てもらっている。食後の口腔ケア後もスタッフが確認している。			◎		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科医より、指導を受けており、口腔状況提供書に基づいて支援している。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	訪問歯科さんの指導の下、支援している。週に1回ポリドントもしている。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、声掛け見守りをして、確認をしている。又、月2回の訪問歯科の時に口腔ケアをしてくれており、指導もしてくれている。			◎		
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	異常のある時は、訪問歯科さんに相談して、治療してもらっている。					
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。				他の利用者がトイレに行く際に声をかけるなど、トイレでの排泄を基本として支援している。おむつの使用者や日中布パンツで過ごす利用者もいるが、使用の必要性などについては、職員間で話し合いその時の状態に応じて支援している。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄記録表をチェックして把握している。					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、トイレの声掛けをしている。オムツの使用は、出来るだけ声掛けやトイレ誘導をしてトイレに座ってもらうようにしている。			◎		○
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。便秘の場合は、医師の指導のもと、下剤を内服してもらっている。					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。排泄の間に合わない人は、早めの声掛けを行っている。					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	おむつの使用などの排泄方法については、利用者の状態に合わせて、申し送り等で検討して、家族さんにも了解をもらって使用している。					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人一人の排泄のパターンを把握して使用している。					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食物繊維の多い食材を毎日食べてもらっている。水分も十分に補えるように声掛けをしている。又、ホーム内の散歩を積極的に行ってもらっている。					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	本人さんの希望時間を確認してから入浴してもらっている。曜日などは決めておらず、基本希望があれば入ってもらうようにしている。			◎	○	通常は週2回、夏場は週3回の入浴を基本としており、毎日入浴する利用者もいる。夕方の入浴など、利用者からの要望があれば臨機応変に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	転倒などのリスクがあるのでスタッフが側で見ているが、利用者さんの体調を確認しながら、ゆっくり入浴できるように支援している。					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる事は、見守り声掛けをしながら、自分でしてもらい、出来ないことの支援をしている。					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	その時の状態を確認しながら、声掛けをして、無理強い無いうように努めている。時間帯を考えたりスタッフを交代して、気持ちよく入ってもらうように工夫している。					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックや体調の確認をしている。入浴後は、水分を取ってもらい、疲れていれば居室で休んでもらっている。					

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	申し送り等やカルテを見てその人の睡眠パターンを確認している。	/	/	/	眠剤を飲む利用者は少なく、昼間は起きて15時には散歩をするなど様々な活動を行うことにより安眠できる生活リズムができています。夜間起きた利用者には、事務所でお茶を飲んでもらい会話をすることで安眠できるようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	その人の睡眠パターンを確認して、その人に応じて時間帯を考えて居室で休んでもらえるように心掛けている。また、日中の過ごし方にも注意している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	出来るだけ、睡眠導入剤や安定剤は内服しないで過ごしてもらうようにしている。日中はなるべく活動してもらうように工夫している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の状態に合わせて、休息や昼寝をしてもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人さんの希望に合わせて、電話や手紙を書いてもらっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話を掛ける時は、家族さんにも了解を得て協力してもらっている。手紙を書きたいときは、一緒に書くようにしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族さんにも了解を得て、協力してもらっており、ゆっくり話せる環境づくりをしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙が届いた時は、本人さんと相談して、電話で伝えたり、手紙を書いたりしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族さんにも、協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	社内研修や勉強会などで理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持っていない人は、事務で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物をしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	日頃から、理解と協力をお願いしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	利用者さん自身、管理できない人が多いので、外出した時等に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、買い物をしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に話し合っている。自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持っていない人は、事務で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物ができる事を伝えている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に話し合っている。利用者さん自身、管理できない人場合は、外出した時に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、了解を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々々の様々なニーズに対して、代表と相談しながら柔軟に取り組んでいる。	◎	/	○	帰宅願望の強い利用者の場合には、外出や外泊などを活用し、今までなじみのある散髪屋さんに行くなど家族の協力も得ながら様々なニーズに対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物は、鉄骨2階建てで優しい雰囲気にしており、敷地内には広い駐車場が完備されており、畑や緑を多くした中庭があり、環境面に配慮している。	◎	◎	○	玄関外でメダカを育て、玄関にはベンチを設けている。訪問者が来た際にはリビングから見える状態になっており、会話や挨拶が気軽にできる環境である。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	○	ホールは、季節の花や行事ごとに飾るようになっている。テーブルやソファは、状態に応じて配置換えもしている。隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	○	◎	○	ユニット間の行き来がしやすい構造になっており、広々として快適な空間となっている。1日2回の掃除では、利用者が掃除機での掃除を役割として行うなど、利用者と職員が共に我が家をきれいにしようという意識が高い。リビングやホールには花が活けてあり、季節感が感じられる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	眩しい光には、レースのカーテンやブラインドを使って調整している。不快な音や大きな音は、出ないように気を付けている。定期的に掃除をし、臭いにも気を付けている。			◎		
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、観葉植物を置いている。窓からは、中庭が見え、木を植えているので、緑を楽しんでもらっている。月に1回掲示板を作成し、行事やイベント情報や写真などを掲示したり、行事ごとの飾りもしている。	○				○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	○				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレや浴室は、ホールから直接見えないう位置にあり、明り取りの窓は上方にあり、すりガラスにしている。	○				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家で使っていたテーブルや椅子、化粧台など持って来て使ってもらっている。本人さんと家族さんと相談して、居心地よく生活できるようにしている。	◎		○	ベッドやエアコン、テレビなどが備わっており、馴染みの写真や飾り物を置くなど自分好みの空間作りがされ、居心地よく過ごせるようになっている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	建物内はバリアフリーで、各所に手擦りを設置している。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。			○	バリアフリー化され移動しやすい環境であり、居室のドアには果物の写真が貼られて部屋をわかりやすくしている。鈴のついた飾り物を取り付けて目印にするなどの工夫もみられ、利用者が安全に自立した生活が送れるようにしている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	常に環境整備を行い、動線には物を置かないように心掛けている。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	新聞や雑誌、本は、いつでも自由に見れるように、ホールの棚に置いている。掃除道具や趣味の物は、所定の所に置いているが、利用者さんが希望すれば、いつでも用意できるようにしており、日々の会話や態度で、感じ取れるように努めている。裁縫道具とポットは危険な場合があるので、事務所に置いている。	○				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	○	基本ユニットの入り口には、鍵をかけていない。やむを得ず職員の目が届かない状況の時や利用者さんが落ち着かない時だけ施錠している。居室は、鍵はかけていない。	◎	◎	○	職員は玄関などの出入口に施錠することの弊害について理解しており、玄関などは施錠されておらず、自由に出入りすることができる。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時等に家族さんと話し合いをしている。入居時の落ち着かない時ややむを得ない時以外は、施錠があたり前にならないように努めている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	○	入口はやむを得ない時以外は施錠はしていない。ユニット間は、施錠をしないで自由に行き来できるように配慮している。外部との出入り口には人が通るとチャイムが鳴るようになっており、鳴ったらスタッフがその都度確認している。	○				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	カルテに、フェイスシートを入れており、病気や留意事項が一目でわかるようにしている。変化や追加があれば、その都度、赤で記入している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の様子をカルテに記載している。毎日、バイタルチェックをし温度表にグラフ化している。異常があれば看護師や医師に相談している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	訪問看護が併設しており、かかりつけの医師による往診も月2回あり、訪問看護師に同行してもらっている。異状時や気になることがあれば、相談し、協力してくれている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	利用者さんの受診状況等は、カルテに記載している。状態に応じて、協力病院で受診が行えるようになっている。また、本人さんや家族さんの希望を大切に、馴染みのかかりつけ医での受診も行っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入居時に本人さん、家族さんと話し合いを持ち、柔軟に対応をしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診や通院が必要な時は、家族さんと話し合いをしている。また、受診後は、その都度、家族さんに結果を報告し、カルテにも記載している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時は、介護要約で情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	主治医、病棟部長、ケースワーカーとの連携を持ち、退院時の受け入れ状態を整えるように努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	普段よりケースワーカーとのかわりを持ち、医療機関の勉強会に参加するなど関係づくりに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護が併設しており、看護師が利用者さんと関わる時間も、相談もしている。情報や気付きは常に看護師に報告しており、健康管理や医療面でも協力してもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	異常時や緊急時の時は、いつでも相談している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	カルテに処方箋を入れている。変化のある時は、申し送り時に伝えている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬袋には、名前、日にち、いつ内服するかを記入しており、仕分けする時、内服する時、内服した後も確認するようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	医師や看護師には、月2回の往診時に伝えている。家族さんにも面会時や、電話で伝えている。				

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態の変化に合わせて、その都度、本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、確認もしている。現時点での緊急時の対応についての意思の確認書をカルテに入れている。	/	/	/	看取りに関する指針、延命処置に関する意思確認書を準備し、利用者や家族に同意を得ている。利用者や家族の考えを聞き取り、常に確認を取りながら医師など関係者を交え話し合い、方針を共有している。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	○	◎	/		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	併設の訪問看護師への相談、協力を得て、職員ともよく話し合っている。	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	代表、訪問看護師と共に取り組んでいる。	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族さんの思いを大切に、家族さんの気持ちを理解して、誠実に対応している。	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。	/	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。ノロウイルス等での汚物処理の仕方については、マニュアルカードを作っており、汚物処理セットも用意している。	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	保健所や行政の勉強会などがあれば、参加している。感染症発生状況も情報もインターネットなどを通じて早く取り入れるようにしている。	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症発生状況や情報はインターネットなどを通じて早く取り入れ、早めに対応を取るよう努めている。	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	洗面所には、手洗いの手順を置いており、薬用ハンドウォッシュとビビスコール、ペーパータオルを設置している。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時にはゆつくと過ごしてもらい、生活状況の説明をしている。状態の変化時には、随時報告している。行事などもできるだけ参加してもらるように努めている。	/	/	/	家族に手紙や年賀状を出してつながりを持つようしており、家族会や運営推進会議への定期的な参加や、月間の行事予定を見て来てくれる家族が多い。また、家族から手紙や暑中見舞いなどが利用者あてに届いた時には電話をして話すなどの援助をしている。家族会や運営推進会議の際に、事業所の運営上の出来事や経過などについて報告をしているが、一部の家族の理解が得られていないため、全ての家族の理解が得られるよう報告方法などの工夫が望まれる。家族の面会時には、職員が必ず声かけをして利用者の日頃の様子を伝え、家族は気軽に相談している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族さんがいつでも気軽に訪問してもらえるような雰囲気作りを心掛けている。小まめに生活状況や体調の変化などを伝えている。誕生会やおやつ作り等には、家族さんにも参加してもらっている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事などには、出来るだけ利用者さんと一緒に過ごしてもらえるように参加の呼びかけをしたり、行事の内容を掲示板や社内報で報告するようにしている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	利用者さんのホームでの生活を手紙でお知らせしている。その時に写真も添えている。又、社内報も送付している。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族さんや利用者さんの思いを本音が聞けるように努め、話し合ったり相談して対応をしている。運営推進会議や家族会などを開催して、家族さんからの意見を聞いて改善していつている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時に生活状況の報告や体調の変化を伝え、職員も一緒に会話の中に入ってコミュニケーションをとるようにしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議や家族会などで報告したり、日々の生活をスライドショーで見てもらっている。新規採用などがあれば紹介している。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議や家族会などでは、家族同士でお話をする機会を持ってもらっている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時に説明をするようにしている。その後も必要時において話し合いをしている。職員は社内研修にて、虐待および身体拘束についての勉強会をしている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族さんがいつでも気軽に声を掛けてもらえるような雰囲気作りを心掛けている。面会時には、生活状況や体調の変化などを伝えている。又、必要に応じて電話でも伝えている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約等の変更のある時は、必ず、理解と納得が得られるように具体的に説明をして承してもらっている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の時も利用者さん、家族さんに決定過程を明確にして納得が得られるように具体的に説明をして承を得ている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時及び料金改定時には、文書で示し、家族会の開催時等に説明し同意を得ている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議に参加してもらったり、イベントに招待したり、招待して頂いたりしながら、理解をはかっている。	/	◎	/	近くで行われるお花見会や運動会に出かけることや、お祭りのだんじりが立ち寄り祭りの雰囲気を楽しむことで地域交流ができています。また、近所の保育園児、ボランティア団体との交流もある。認知症カフェを建物内で行い、地域の方々が参加する活動を長年継続するなど、地域とのネットワークづくりに努めているが、地域住民の理解が不十分なため、今後は地域からの理解が十分得られるようなネットワークづくりの構築に取り組んで欲しい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	市の相談員、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントにも参加している。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっている。又、月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	認知症カフェに参加して下さっているボランティアの方の支援が増えている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	認知症カフェもあり、気軽に立ち寄ってくれていると思う。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	ホームの周りに民家はないが、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントに参加させてもらっている。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近所の保育園や事業所との交流があり、観覧会や運動会イベントに招待してくれたり、訪問してくれている。又、認知症カフェに来てくれるボランティアの方が、コンサートを開いたり、手品をしてくれたりしている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域のイベントに参加したり、ホーム内でも他のユニットや、デイサービスに遊びに行ったりしている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近所の保育園や事業所との交流がある。月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。運営推進会議や避難訓練時に警察や消防の方に来てもらっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	参加者が、参加しやすいように年間行事を立てて案内しており、参加もしてくれている。	○	/	◎	運営推進会議は利用者や家族、保育園、警察署、民生委員、市職員など、多くの参加者で構成されている。グループでの意見交換の時間を取り、参加者からの意見を得やすい仕組みができており、得られた意見は、今後の運営のため話し合いの場を設け、サービス向上に活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者さんのサービスの実績や評価の取り組みなどは、その都度、報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で出された意見や提案などは、参加者に報告書を提出している。状況や結果は報告できていないこともあるが、事業所内全体で、改善するようになっている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマによって警察官、消防員など様々な方に参加してもらえるように努めている。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	参加者には、議事録を郵送している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は、利用者さん一人一人が笑顔で穏やかに生活を送ってもらえるようにとの思いを持って、日々取り組んでいる。朝の申し送りでも共有できるようにスタッフ全員で理念を復唱している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各ユニットも事務所には、理念や目標を掲げている。パンフレットにも記載している。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	社内勉強会や実技研修は、毎月開催している。勤務年数に応じての研修もしている。	/	/	/	社内勉強会や実技研修会を毎月実施し、新人研修、勤務経験に応じた研修などが実施されている。職員は年1回ストレスチェックを受けられるほか、必要に応じて医療機関で相談できる体制を整え、ストレス軽減に努めており、職員が働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月、社内研修や勉強会を開催しており、勤務年数に応じての研修もしている。又、資格取得に対しての支援もしている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は、管理者や個々の職員の努力や勤務状況を把握し、その都度話し合う機会をもっている。資格取得に対しての支援もしており、やりがいや向上心を持って働けるような環境づくりに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	西条市の連絡会に参加したり、相互研修に参加して、サービスの質の向上に努めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年に1度、ストレスチェックをして、その結果を通して対応している。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。	/	/	/	社内勉強会において虐待防止に関する研修を年1回行い、さらに身体拘束に関する検討委員会があり、毎月検討する時間を設けており、職員は不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順などについて理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎朝の申し送り時や部署会などで話す機会を持っている。また、いつでも話やすい雰囲気づくりを心掛けている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。利用者さんの内出血や表皮剥離などの異状を発見した時は、事故報告書を書いてもらい、検討している。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	出勤時には、職員の顔色や表情などの確認をしている。又、お互いが注意したり相談できる雰囲気作りにも努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	職員は、社内研修や勉強会で理解し、日頃から身体拘束に対する意識を高めている。家族さんともその都度、よく話し合うように努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中でも確認するように努めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で、その状況に応じての支援ができるように努めている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	その都度、必要に応じて、連携を取って対応をしている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応についてのマニュアルがあり、勉強会もしている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	社内研修や勉強会などで理解しており、実技の勉強会もしている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故発生時には、速やかに事故報告書を書いてもらっている。毎月ヒヤリハットを書いてもらい、毎月の職員会議で検討している。業務改善報告書も書いてもらっている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故発生時には、事故報告書に基づき、朝の申し送り時に確認をしている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情の受付窓口を設けており、苦情があった場合は、代表や管理者に報告している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情報告書に記入し、必要時には、市に報告相談をしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情のある時は、速やかに対応をして、前向きな話し合いと改善ができるように努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	利用者さんにも運営推進会議に参加してもらって、意見や要望を言ってもらっている。又、日頃から、何でも言いやすい雰囲気作りに努めている。	/	/	○	運営推進会議や家族会の場で意見を聞く機会があるほか、普段の利用者同士の会話の中から本音の意見を得ることが多く、職員は常に話を聞き取ることに注意を払っている。家族からの意見は、運営推進会議でもらっている。家族会は年1回実施し、家族だけで話し合える時間も設け、教えてもらっている。管理者は、職員からの意見は朝の申し送りなどで聞き、日々の業務の中でも話し合う機会を設けて聞いており、常にサービス向上につながるよう検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	事業所の相談窓口を設けており、運営推進会議や個別にも伝えやすいように努めている。	○	/	◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族会や、運営推進会議などで伝えている。又、普段から気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	定期的に各ユニットを回って、利用者さんや職員に声を掛けてくれている。又、その都度意見や要望に対応してくれている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	朝の申し送りや、職員会議を利用して検討している。又、必要時には、代表にも参加してもらっている。	/	/	○	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	必要に応じて、朝の申し送り時を利用して、出来るだけ全員で確認をするようにしている。	/	/	/	事業所内での自己評価は毎年行い、定期的な見直しの機会を持って業務改善につなげている。運営推進会議でサービス評価の結果を伝えているが、その後の取り組みに関する成果について十分な聞き取りができていない。今後は、取り組みに関する定期的な意見交換が実施されることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。	/	/	/	
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議や家族会などで報告して、意見や意向を伺っている。	○	◎	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	毎月の職員会議で確認をするようにしている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	マニュアルを作成しており、社内研修や勉強会で学ぶ機会がある。年に1回市の危機管理課にお願いして勉強会を開催している。	/	/	/	あらゆる場面を想定し、内容の違う訓練を毎月行っている。法人内で災害に対する相互協力体制を作り上げ、安全確保のため他のグループホームへの移動や、他のグループホームから受け入れる物資を融通するなど、シミュレーションを実施し、緊急災害時の協力支援体制を整えている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	毎月、色々な場面を想定して避難訓練を実施している。年2回消防署員の立会での訓練をし指導してもらっている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	年に2回安全パトロールをして、消火設備や避難経路、非常用の食料や備品の確認をしている。外部に依頼して消防設備の点検も年2回行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署とは、定期的な連携を取って、避難訓練に立ち会ってもらったり、緊急時の対応について実技指導をしてもらっている。	△	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	災害時を想定した地域のネットワークには、代表が積極的に参加してくれている。消防や警察の方とは、運営推進会議にも参加してもらっており、その都度、相談や指導をもらっている。同一事業所内では、協力して災害対策に取り組んでいる。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	市と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。毎月、認知症カフェを開催したり、運営推進会議でもミニ介護講座を取り入れている。高校の授業で講演にも行っている。	/	/	/	関係機関と協力しながら地域の介護や福祉に関する総合相談窓口として様々な相談を受けている。認知症カフェを行い、介護に関連する研修生の受け入れや認知症サポーターの養成などにも取り組んでおり、活動はひよこ通信で報告している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	毎月の認知症カフェ開催時に相談支援を行っている。又、いつでも相談支援ができるように努めている。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	○	毎月、認知症カフェを開催しており、ボランティアの方が、コンサートを開催してくれたり、手品やよさこい踊りなどを披露してくれている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	実践者研修やリーダー研修などで実習生の受け入れをしている。令和元年7月より、フィリピンからの実習生を受け入れている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	地域のボランティアや市の相談員、学校、保育園、事業所、医療機関と交流があり、イベントにも参加している。年1回、夏祭り大会を開催し、地域の方にも参加してもらっている。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

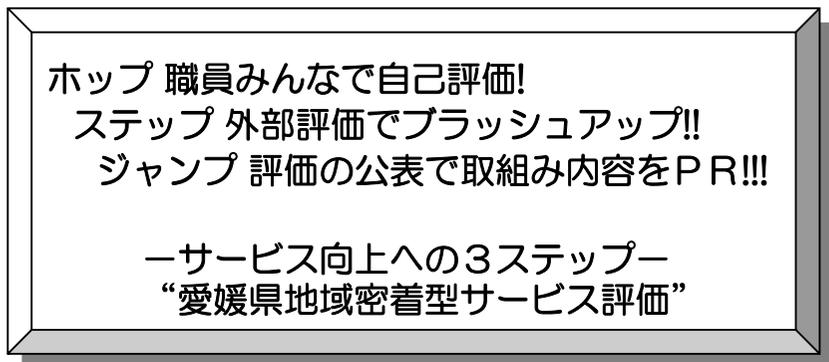
I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制



【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年9月18日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 32名	(依頼数) 45名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870600297
事業所名	グループホーム フルーツの家1階
(ユニット名)	2ユニット
記入者(管理者)	
氏名	福永 智子
自己評価作成日	令和元年8月5日

<p>【事業所理念】</p> <p>和やかで笑顔あふれる生活づくり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>カルテに介護計画のサービスの内容の実施状況を記録したり、変化や気付きなどを赤のボールペンで記入して、みんなで情報を共有していくことに取り組んできたが、変化や気付きなどを赤ペンで記入することは出来ているが、介護計画の実施状況の記録が十分に出来ていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所開設から19年が経っているが、建物内は明るく清潔感があふれ、観葉植物や花もあり、居心地の良い空間が作られている。ユニット間の交流があり、また関連するデイサービスとの交流も行われ、利用者にとっての「我が家」の中で様々な他者との心の交流が見られている。建物内に認知症カフェを開催する場所があり、外部の人の出入りもしやすい雰囲気が備わっている。地域の介護や福祉の拠点として機能し、相談や研修機能も充実している。日々の利用者の状況に応じた分析と検討、介護に関する記録の整備に取り組み、利用者の変化や職員の気づきについて記録ができるよう取り組んでいる。</p>
---------------------------------------	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思い暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人さんや家族の方が意向を言いやすいような雰囲気心がけており、得た情報はフェイスシートやアセスメントシートを利用し、職員間で情報の共有を行っている。	○	/	○	昔の生活、今の生活、今できることなどの情報を把握し、シートにまとめている。また、担当者が似顔絵を描き、利用者の人となりユニークに視覚化することもできている。新たな情報を入手すると赤字で加えることで内容は豊かなものになっている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	家族の方に相談したり、本人さんの表情や言葉から思いをくみ取れるように努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族さんや友人の方が面会に来られた時に、情報が得られるように努力をしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して、職員間で共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	カルテの中にフェイスシートやアセスメントシート、介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して職員間で共有している。また、同一法人内の他事業所を利用していた方に関しては、情報を提供してもらっている。	/	/	○	利用者や家族から得られた生い立ちや性格、趣味や職業、生活リズムなどの情報をフェイスシートやアセスメントシートにまとめている。基本的には6か月ごとに情報の見直しを行い、新たなフェイスシートなどを作成している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の生活の中で気付いたり感じたことを申し送り時等を利用して話し合ったり、フェイスシートやアセスメントシートなどに記入して現状を把握するように努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。又、病状の変化についてはカルテに記載して、医師からの指示は、赤字で囲みわかりやすくしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	カルテや入居者情報、排泄記録表等を用いて把握しており、毎朝の申し送りでも伝えて行っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カルテにアセスメントシートを入れており、気づきや状態の変化などを記入している。家族さんから得た情報も記入して、朝の申し送り時に伝えている。	/	/	○	把握した情報を基にして、日々の関わりの中で観察できたことを「入居者情報」や「摂取及び排泄記録表」にまとめて朝・夕の申し送りで共有し、複数の職員で検討を行っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行い、朝の申し送り時等を利用して検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	気づきや状態の変化はアセスメントシートやケアプラン等の空スペースに記載するなどして、介護計画書の見直しに活かしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	介護計画書やアセスメントシートをカルテに入れており、気持ちや思いを空スペースに記載するなどして検討している。	/	/	/	利用者や家族、管理者、計画作成担当者、介護職員などが集まり一緒に話し合うことで介護計画を作成している。家族が出席できない場合は事前に文書で意向を確認している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、介護計画書の見直しをしようとしている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意向を把握しにくい方に関しては、家族さんに相談したり、本人さんの表情や言葉からくみ取れるように努力している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族さんや地域の人が意向を言いやすい雰囲気や心掛けており、得た情報などを介護計画書に落とせるように努めている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	介護計画は個人ファイルの経過記録の中に綴じており、常に確認しやすいようにしている。毎月ケアの実施状況を確認し、6か月を基本としてモニタリングを行っている。利用者の日々の様子については、言葉や行動、エピソードなどを細かく記録している。今後はさらに支援している職員が気がついたことや思ったこと、アイデアを記載していくことを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	3ヶ月から6ヶ月でモニタリングをして申し送り時等を利用して確認している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	カルテや入居者情報に記入している。又、受診状況や思ったことなどはAP覧も利用している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	カルテのAP欄に記入するように努めている。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行っている。	/	/	/	計画の期間ごとや退院時など状態の変化があった時に、利用者ごとの担当者がアセスメントを行って変化に対応している。また、毎月モニタリングを行って目標達成状況を数値で表している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院、退院等の時等、状態の変化時は、適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞いている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	適宜、ケース検討会やサービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、その都度介護計画書の見直しをしている。	/	/	/	サービス担当者会議を適宜実施し、6か月ごとの計画見直しを基本としている。さらに、退院後の場合は3か月の段階においても見直しを行っている。会議に出席できない場合は、議事録を回覧したり、大切なことは申し送ったりするなど、情報が確実に伝わるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃から、意見を言いやすい雰囲気作りや心掛けている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	職員会議や行事ごとのある日の申し送り時等を利用してしている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を確認してもらったり、大切なことは、申し送り時に入居者情報に記載して、全員が確認できるようにしている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	回覧を確認してもらって、サインをもらっている。又、申し送り時に伝えている。	/	/	/	「入居者情報」シートを活用し、利用者に関する情報を朝夕の申し送り時に伝えている。医療的な情報の記録については、赤字の枠で囲むなど、確認しやすいよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り時にすべての職員に情報が伝わるまで繰り返し伝えている。又、回覧や議事録などに確認のサインをもらうようにしている。申し送りノートを作り、少しの変化も記入し、把握ができるようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その人に合わせて、その日をどう過ごしたいかを尋ね、出来る限り利用者の方のペースに合わせてるように努めている。	/	/	/	日々の気分に合わせて飲み物が選べるようにし、衣服も自分の好みのものが選べるようにしている。散歩やカレンダー塗り、パズル、生け花など、利用者個々の一番したいことを楽しみながら取り組んでもらうようにしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	10時の水分補給時には、コーヒーや紅茶等の中から自己決定できるように努めている。更衣する時は居室のタンスの所に行ってその日に着たい服を選んでもらっている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	質問はわかりやすく、相手が言えるような声掛けをするように心掛けている。会話の中でも、思いや希望が伝えやすいような雰囲気づくりに努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	「ちょっとまってよ。」の言葉を禁句として、ひとりひとりの思いを大切に寄り添うように心掛けている。体調が悪い時は無理をしないように心掛けている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりにしている。	○	人生の先輩として人格を尊重して関わりを持つように心掛けている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人さんの言葉や表情から想いがくみ取れるように努めている。スタッフからも何々ですか？と具体的に聞き表情などで判断している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けている。	○	◎	○	職員は人権や尊厳について、研修で学ぶ機会があり理解して共有しており、プライバシーの尊重を常に意識しながら日々のケアに努めている。トイレ誘導などの際には、周囲にわからないようさりげない声かけを徹底している。訪室時には必ずノックや声かけをしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けており、職員同士でも声を掛け合って常に気をつけるようにしている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	声掛けの仕方を工夫するなどして、自尊心を損ねる事の無いように、その人らしさを尊重するような対応を心掛けている。排泄時も外でそっと見守りしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る時は、必ず、ノックや声掛けをしている。又、他の利用者さんが間違っははらないように気を付けて見守り声かけなどを行っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、職員同士も声を掛け合って注意をしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者さんに助けてもらったり教えてもらった時は、感謝の言葉やお礼を声や態度に出して伝えるように努めている。出来る限り一緒にできる事ははしてもらって、感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	仲の良い利用者が近くに集まり、他の利用者の移動を手伝うことや、場所を離れようとする行動を職員にも伝えてくれる状況がある。仲間と一緒にぞうきん作りやパズルゲームなどを行って楽しい時間を過ごせるようにしており、利用者同士良い関係が築けるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	日々の生活の中で、職員が間に入り、状況に応じて見守りを行い、利用者さん同士が助け合い、支えあって生活できるように配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらった場面をつくる等)。	○	仲の良い、気の合う人が穏やかに過ごせるように、また、孤立する利用者さんがいないように、ホールでの座席に気を付けて配置している。行事等の時は、世話役の人にも前もってお願いをして、円滑に物事が進むように努めている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	状況に応じて、職員が中に入り、場所や雰囲気を変えたりしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人さんとよくお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人さんとよくお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの場所にはドライブなどで出かける事はあるが、知人や友人に会いに行くのは少ない。知人や友人の方が面会に来られた時は、一緒に過ごせるように配慮している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会に来られた時は、居室やホールでゆっくりと我が家のように過ごせるように配慮している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	その人に合わせて、出来る限り利用者の方のペースに合わせてるように努めている。併設の通所介護が外出の際に、乗車定員に余裕があれば、声を掛けてもらい一緒に外出もしている。外出が難しい時は、庭を散歩したり、花を見たりしている。畑を見に行ったり、野菜の収穫も行っている。	○	×	○	近くの保育園の運動会に招かれたり、花見や初詣など季節を感じる場面で外出したりしている。重度の利用者を含め、併設のデイサービスに行ったり、テラスに出て外気浴を行ったりして気分転換を図るようにしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	毎月、認知症サポーターやボランティア、地域の方の協力を得て、認知症カフェに参加させてもらっている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調の良い時は庭に出て散歩をしたり、花を見たりしている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	利用者さんの希望で買い物に出掛けたり、家族の方の協力を得て自宅へ帰ったりできるように支援している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めている。	/	/	/	利用者個々の今できることを把握し、アセスメントシートの中の「できること」に記載して職員間で情報を共有している。利用者には洗濯やぞうきん作り、調理の下ごしらえなどを取り組んでもらっており、職員は極力手伝わす見守りを心がけている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めており、その人に合った声掛けや支援を心掛けている。看護師や医師にも相談している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、その人の持っている力が発揮できるように声掛け見守りを行っている。家事全般が得意な人には、日課としてしてもらっている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握するように努めている。	/	/	/	ホールの花瓶に花を活けることや、お茶をたてること、下膳や配膳などの手伝いをするなど、利用者個々に役割や出番を作るようにしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握して、日頃から、利用者さんが何をしたいかを常に考えながら支援している。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の観光スポットを見に季節ごとのお花を見に行ったり、お祭り、初詣などに行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	入浴時や更衣の時は、なるべく服を選んでもらうようにしている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら、髪をといってもらったりしている。	/	/	/	衣服の乱れや食事の食べこぼしなどは、周囲に気づかれないようにさりげなくカバーしている。重度な利用者を含め、毎日好みの衣服に着替えてその人らしさが保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	出来るだけ利用者さんの希望がかなうように、本人、家族さんと相談して用意して、居心地良く過ごせるようにしている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族さんの情報や普段の何気ない会話の中から把握して、支援できるように努めている。好きな色や柄などもできるだけ聞くようにしている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族さんと本人さんと相談して、季節や行事の合わせて、その人に合う服を着るようにしてもらっている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	一人一人の思いやプライドを大切にしながら、さりげなく声掛け見守りしながら、支援している。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ホームにも月1回美容師さんが来てくれているが、希望のある方は、家族さんに協力してもらって望みの美容室へ行っている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人さんの思いを大切に、その人らしさが保てるように家族さんの協力も得て支援している。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	社内研修で学べる機会があり、理解できている。	/	/	/	グループ内の栄養士が献立を作り、ユニット内にある調理場で調理される様子を見ることができ、匂いを楽しむことができる。利用者には調理の下ごしらえや下膳などをできる範囲で手伝ってもらっている。献立や味付けに関する意見や感想を利用者同士の会話の中から拾い、職員が栄養士に伝え、献立や味付けなどに反映させている。利用者の状況に応じてスプーンやフォーク、ストローなどを使い、一口大のカットや食材をすりおろすなどの食べやすさについても工夫されている。職員は利用者と一緒に同じ食卓を囲んで食事しながら、利用者のサポートをしている。重度の利用者を含め、献立の会話をしながら調理ができて上がるのを心待ちにしている。栄養士が利用者の希望を踏まえ献立を作成しており、職員間で定期的に栄養バランス等について話し合っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食事作りは厨房スタッフがやっているが、料理の下ごしらえ等は、一緒に手伝ってもらっている。片付けや洗い物は、出来る利用者さんが時々してくれている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝ってもらった時には、感謝の気持ちを伝え、一緒に喜んでる。又、ホールには、スタッフが献立を手書きし、利用者さんとも食事を楽しんでもらっている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	カルテに記入したり食事確認表を作っており、いつでも確認できるようにしている。食べれないメニューがあれば、その都度変更している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立は、栄養士さんが栄養面や季節の物を考慮して立ててくれている。お正月、節分、雛祭り、敬老の日などは折詰弁当を提供している。利用者さんの好みや苦手な物、アレルギーにも配慮してくれている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	○	一人一人の食事の確認をしながら、彩や添え物に工夫して提供してくれている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	馴染みのコップを使用してお茶を飲まれている人もいる。自宅で使用していたスプーンやフォークを使用している人もいる。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も利用者さんと同じ食卓を囲んでなるべく一緒に食べるようにしている。介助のいる利用者さんのそばで食べたりの配慮をしている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	その時の献立を伝えて、食事のでき具合や、臭いを伝えながら会話をしている。皆が過ごすホールと厨房が近いように設計されており、厨房内も見えやすい。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	栄養士が栄養バランスを考えて献立をたててくれている。水分量は、一日の摂取量を個人別に記録している。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	摂取及び排泄記録表に、食事や水分量を記入し、必要量が確保できるように心掛けている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している。水分が摂りにくい利用者さんには、コーヒーやジュースなどに変更して摂取してもらっている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	利用者さんや職員の希望をお願いして、栄養士さんが献立をたててくれている。	/	/	◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	厨房スタッフが、栄養士さん指導の下、気を付けてしてくれている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	社内研修で勉強をする機会があり、食後には、口腔ケアを行うように努めている、				毎食後の口腔ケアを行い、利用者個々の口腔内の状況については把握しており、常に口腔内の清潔を保ち健康状況が継続できるよう努めているほか、月2回の訪問歯科診療を受けられる体制を整えているなど、万全を期している。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	定期的に歯科往診があり診てもらっている。食後の口腔ケア後もスタッフが確認している。			◎		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科医より、指導を受けており、口腔状況提供書に基づいて支援している。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	訪問歯科さんの指導の下、支援している。週に1回ポリドントもしている。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、声掛け見守りをして、確認をしている。又、月2回の訪問歯科の時に口腔ケアをしてくれており、指導してもらっている。			◎		
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	異常のある時は、訪問歯科さんに相談して、治療してもらっている。					
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。				他の利用者がトイレに行く際に声をかけるなど、トイレでの排泄を基本として支援している。おむつの使用者や日中布パンツで過ごす利用者もいるが、使用の必要性などについては、職員間で話し合いその時の状態に応じて支援している。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄記録表をチェックして把握している。					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、トイレの声掛けをしている。オムツの使用は、出来るだけ声掛けやトイレ誘導をしてトイレに座ってもらうようにしている。			◎		○
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。便秘の場合は、医師の指導のもと、下剤を内服してもらっている。					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。排泄の間に合わない人は、早めの声掛けを行っている。					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	おむつの使用などの排泄方法については、利用者の状態に合わせて、申し送り等で検討して、家族さんにも了解をもらって使用している。					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人一人の排泄のパターンを把握して使用している。					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食物繊維の多い食材を毎日食べてもらっている。水分も十分に補えるように声掛けをしている。又、ホーム内の散歩を積極的に行ってもらっている。					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	出来るだけ、希望に添えるように努力している。曜日などは決めておらず、基本希望があれば入ってもらっている。			◎	○	通常は週2回、夏場は週3回の入浴を基本としており、毎日入浴する利用者もいる。夕方の入浴など、利用者からの要望があれば臨機応変に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	転倒などのリスクがあるのでスタッフが側で見ているが、利用者さんの体調を確認しながら、ゆっくり入浴できるように支援している。					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる事は、見守り声掛けをしながら、自分でしてもらい、出来ないことの支援をしている。					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	その時の状態を確認しながら、声掛けをして、無理強い無いうように努めている。時間帯を考えたりスタッフを交代して、気持ち良く入ってもらい工夫している。					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックや体調の確認をしている。入浴後は、水分を取ってもらい、疲れていれば居室で休んでもらっている。					

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	申し送り等やカルテを見てその人の睡眠パターンを確認している。	/	/	/	眠剤を飲む利用者は少なく、昼間は起きて15時には散歩をするなど様々な活動を行うことにより安眠できる生活リズムができています。夜間起きた利用者には、事務所でお茶を飲んでもらい会話をすることで安眠できるようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	その人の睡眠パターンを確認して、その人に応じて時間帯を考えて居室で休んでもらえるように心掛けている。また、日中の過ごし方にも注意している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	出来るだけ、睡眠導入剤や安定剤は内服しないで過ごしてもらうようにしている。日中はなるべく活動してもらうように工夫している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の状態に合わせて、休息や昼寝をしてもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人さんの希望に合わせて、電話や手紙を書いてもらっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話を掛ける時は、家族さんにも了解を得て協力してもらっている。手紙を書きたいときは、一緒に書くようにしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族さんに了解を得て、協力してもらっている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙が届いた時は、本人さんと相談して、電話で伝えたり、手紙を書いたりしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族さんにも、協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	社内研修や勉強会などで理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持っていない人は、事務で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物をしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	日頃から、理解と協力をお願いしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	利用者さん自身、管理できない人が多いので、外出した時等に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、買い物をしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に話し合っている。自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持っていない人は、事務で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物ができる事を伝えている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に話し合っている。利用者さん自身、管理できない人は、外出した時に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、了解を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々々の様々なニーズに対して、代表と相談しながら柔軟に取り組んでいる。	/	◎	/	帰宅願望の強い利用者の場合には、外出や外泊などを活用し、今までなじみのある散髪さんに行くなど家族の協力も得ながら様々なニーズに対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物は、鉄骨2階建てで優しい雰囲気にしており、敷地内には広い駐車場が完備されており、畑や緑を多くした中庭があり、環境面に配慮している。	◎	◎	○	玄関外でメダカを育て、玄関にはベンチを設けている。訪問者が来た際にはリビングから見える状態になっており、会話や挨拶が気軽にできる環境である。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	ホールは、季節の花や行事ごとに応じた物を飾るようにしている。テーブルやソファは、状態に応じて配置換えもしている。隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	○	◎	○	ユニット間の行き来がしやすい構造になっており、広々として快適な空間となっている。1日2回の掃除では、利用者が掃除機での掃除を役割として行うなど、利用者と職員が共に我が家をきれいにしようという意識が高い。リビングやホールには花が活けてあり、季節感が感じられる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	眩しい光には、レースのカーテンやブラインドを使って調整している。不快な音や大きな音は、出ないように気を付けている。定期的に掃除をし、臭いにも気を付けている。			◎		
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、観葉植物を置いている。窓からは、中庭が見え、木を植えているので、緑を楽しんでもらっている。月に1回掲示板を作成している。行事やイベントの日時、写真を貼って楽しんでもらっている。又、行事ごとの飾りもしている。	○				○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	○				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレや浴室は、ホールから直接見えないう位置にあり、明り取りの窓は上方にあり、すりガラスにしている。	○				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家で使っていたテーブルや椅子、化粧台など持って来て使ってもらっている。本人さんと家族さんと相談して、居心地よく生活できるようにしている。	◎		○	ベッドやエアコン、テレビなどが備わっており、馴染みの写真や飾り物を置くなど自分好みの空間作りがされ、居心地よく過ごせるようになっている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	建物内はバリアフリーで、各所に手擦りを設置している。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。			○	バリアフリー化され移動しやすい環境であり、居室のドアには果物の写真が貼られて部屋をわかりやすくしている。鈴のついた飾り物を取り付けて目印にするなどの工夫もみられ、利用者が安全に自立した生活が送れるようにしている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	常に環境整備を行い、動線には物を置かないように心掛けている。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌、本は、いつでも自由に見られるように、ホールの棚に置いている。掃除道具や趣味の物は、所定の所に置いているが、利用者さんが希望すれば、いつでも用意できるようにしており、日々の会話や態度で、感じられるように努めている。裁縫道具とポットは危険な場合があるので、事務所に置いている。	○				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	基本ユニットの入り口には、鍵をかけていない。やむを得ず職員の目が届かない状況の時や利用者さんが落ち着かない時だけ施錠している。居室は、鍵はかけていない。	◎	◎	○	職員は玄関などの出入口に施錠することの弊害について理解しており、玄関などは施錠されておらず、自由に出入りすることができる。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時等に家族さんと話し合いをしている。入居時の落ち着かない時ややむを得ない時以外は、施錠があたり前にならないように努めている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	入口はやむを得ない時以外は施錠はしていない。、ユニット間は、施錠をしないで自由に行き来できるように配慮している。外部との出入り口には人が通るとチャイムが鳴るようになっており、鳴ったらスタッフがその都度確認している。	○				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	カルテに、フェイスシートを入れており、病気や留意事項が一目でわかるようにしている。変更があれば、赤で記入している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の様子をカルテに記載している。毎日、バイタルチェックをし温度表にグラフ化している。異常があれば看護師や医師に相談している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	訪問看護が併設しており、かかりつけの医師による往診も月2回あり、訪問看護師に同行してもらっている。異状時や気になることがあれば、相談し、協力してくれている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	利用者さんの受診状況等は、カルテに記載している。状態に応じて、協力病院で受診が行えるようになっている。また、本人さんや家族さんの希望を大切に、馴染みのかかりつけ医での受診も行っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入居時に本人さん、家族さんと話し合いを持ち、柔軟に対応をしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診や通院が必要な時は、家族さんと話し合いをしている。また、受診後は、その都度、家族さんに結果を報告し、カルテにも記載している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時は、介護要約で情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	主治医、病棟部長、ケースワーカーとの連携を持ち、退院時の受け入れ状態を整えるように努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	普段よりケースワーカーとのかわりを持ち、医療機関の勉強会に参加するなど関係づくりに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護が併設しており、看護師が利用者さんと関わる時間もあり、相談もしている。情報や気付きは常に看護師に報告しており、健康管理や医療面でも協力してもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	異常時や緊急時の時は、いつでも相談している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	カルテに処方箋を入れている。変化のある時は、申し送り時に伝えている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬袋には、名前、日にち、いつ内服するかを記入しており、仕分けする時、内服する時、内服した後も確認するようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	医師や看護師には、月2回の往診時に伝えている。家族さんにも面会時や、電話で伝えている。				

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態の変化に合わせて、その都度、本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、確認もしている。現時点での緊急時の対応についての意思の確認書をカルテに入れている。	/	/	/	看取りに関する指針、延命処置に関する意思確認書を準備し、利用者や家族に同意を得ている。利用者や家族の考えを聞き取り、常に確認を取りながら医師など関係者と交話し合い、方針を共有している。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	○	◎	/		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	併設の訪問看護師への相談、協力を得て、職員ともよく話し合っている。	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	代表、訪問看護師と共に取り組んでいる。	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族さんの思いを大切に、家族さんの気持ちを理解して、誠実に対応している。	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。	/	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。ノロウイルス等での汚物処理の仕方については、マニュアルカードを作っており、汚物処理セットも用意している。	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	保健所や行政の勉強会などがあれば、参加している。感染症発生状況も情報もインターネットなどを通じて早く取り入れるようにしている。	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症発生状況や情報はインターネットなどを通じて早く取り入れ、早めに対応を取るよう努めている。	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	洗面所には、手洗いの手順を置いており、薬用ハンドウォッシュとビビスコール、ペーパータオルを設置している。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時にはゆつくと過ごしてもらい、生活状況の説明をしている。状態の変化時には、随時報告している。行事などもできるだけ参加してもらるように努めている。				家族に手紙や年賀状を出してつながりを持つようしており、家族会や運営推進会議への定期的な参加や、月間の行事予定を見て来てくれる家族が多い。また、家族から手紙や暑中見舞いなどが利用者あてに届いた時には電話をして話すなどの援助をしている。家族会や運営推進会議の際に、事業所の運営上の出来事や経過などについて報告をしているが、一部の家族の理解が得られていないため、全ての家族の理解が得られるよう報告方法などの工夫が望まれる。家族の面会時には、職員が必ず声かけをして利用者の日頃の様子を伝え、家族は気軽に相談している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族さんがいつでも気軽に訪問してもらえるような雰囲気作りを心掛けている。小まめに生活状況や体調の変化などを伝えている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事などには、出来るだけ利用者さんと一緒に過ごしてもらえるように参加の呼びかけをしたり、行事の内容を掲示板や社内報で報告するようにしている。	◎		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	利用者さんのホームでの生活を手紙でお知らせしている。その時に写真も添えている。又、社内報も送付している。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族さんや利用者さんの思いを本音が聞けるように努め、話し合ったり相談して対応をしている。運営推進会議や家族会などを開催して、家族さんからの意見を聞いて改善して行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時に生活状況の報告や体調の変化を伝え、職員も一緒に会話の中に入ってコミュニケーションをとるようにしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議や家族会などで報告をするようにしており、日頃の生活をスライドショーで見てもらっている。新規採用などがあれば紹介している。	x		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議や家族会などでは、家族同士でお話をする機会を持ってもらっている。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時に説明をするようにしている。その後も必要時において話し合いをしている。職員は社内研修にて、虐待および身体拘束についての勉強会をしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族さんがいつでも気軽に声を掛けてもらえるような雰囲気作りを心掛けている。面会時には、生活状況や体調の変化などを伝えている。又、必要に応じて電話でも伝えている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約等の変更のある時は、必ず、理解と納得が得られるように具体的に説明をして了承してもらっている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の時も利用者さん、家族さんに決定過程を明確にして納得が得られるように具体的に説明をして了承を得ている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時及び料金改定時には、文書で示し、家族会の開催時等に説明し同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
Ⅲ. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議に参加してもらったり、イベントに招待したり、招待して頂いたりしながら、理解をはかっている。		◎		近くで行われるお花見会や運動会に出かけることや、お祭りのだんじりが立ち寄り祭りの雰囲気を楽しむことで地域交流ができています。また、近所の保育園児、ボランティア団体との交流もある。認知症カフェを建物内で行い、地域の方々が参加する活動を長年継続するなど、地域とのネットワークづくりに努めているが、地域住民の理解が不十分なため、今後は地域からの理解が十分得られるようなネットワークづくりの構築に取り組んで欲しい。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	市の相談員、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントにも参加している。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっている。又、月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。		×	△		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	認知症カフェに参加して下さっているボランティアの方の支援が増えている。					
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	認知症カフェもあり、気軽に立ち寄ってくれていると思う。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	ホームの周りに民家はないが、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントに参加させてもらっている。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっている。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近所の保育園や事業所との交流があり、観覧会や運動会イベントに招待してくれたり、訪問してくれている。又、認知症カフェに来てくれるボランティアの方が、コンサートを開いたり、手品をしてくれたりしている。					
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域のイベントに参加したり、ホーム内でも他のユニットや、デイサービスに遊びに行ったりしている。					
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近所の保育園や事業所との交流がある。月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。運営推進会議や避難訓練時に警察や消防の方に来てもらっている。					
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	参加者が、参加しやすいように年間行事を立てて案内しており、参加もしてくれている。	○		◎	運営推進会議は利用者や家族、保育園、警察署、民生委員、市職員など、多くの参加者で構成されている。グループでの意見交換の時間を取り、参加者からの意見を得やすい仕組みができており、得られた意見は、今後の運営のため話し合いの場を設け、サービス向上に活かしている。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者さんのサービスの実際や評価の取り組みなどは、その都度、報告している。			○		
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で出された意見や提案などは、参加者に報告書を提出している。状況や結果は報告できていないこともあるが、事業所内全体で、改善するようになっている。			◎		○
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマによって警察官、消防員など様々な方に参加してもらえるように努めている。			◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	参加者には、議事録を郵送している。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は、利用者さん一人一人が笑顔で穏やかに生活を送ってもらえるようにとの思いを持って、日々取り組んでいる。朝の申し送りでも共有できるようにスタッフ全員で理念を復唱している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各ユニットも事務所には、理念や目標を掲げている。パンフレットにも記載している。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	社内勉強会や実技研修は、毎月開催している。勤務年数に応じての研修もしている。	/	/	/	社内勉強会や実技研修会を毎月実施し、新人研修、勤務経験に応じた研修などが実施されている。職員は年1回ストレスチェックを受けられるほか、必要に応じて医療機関で相談できる体制を整え、ストレス軽減に努めており、職員が働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月、社内研修や勉強会を開催しており、勤務年数に応じての研修もしている。又、資格取得に対しての支援もしている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は、管理者や個々の職員の努力や勤務状況を把握し、その都度話し合う機会をもっている。資格取得に対しての支援もしており、やりがいや向上心を持って働けるような環境づくりに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	西条市の連絡会に参加したり、相互研修に参加して、サービスの質の向上に努めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年に1度、ストレスチェックをして、その結果を通して対応している。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。	/	/	/	社内勉強会において虐待防止に関する研修を年1回行い、さらに身体拘束に関する検討委員会があり、毎月検討する時間を設けており、職員は不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順などについて理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎朝の申し送り時や部署会などで話す機会を持っている。また、いつでも話やすい雰囲気づくりを心掛けている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。利用者さんの内出血や表皮剥離などの異状を発見した時は、事故報告書を書いてもらい、検討している。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	出勤時には、職員の顔色や表情などの確認をしている。又、お互いが注意したり相談できる雰囲気作りにも努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	職員は、社内研修や勉強会で理解し、日頃から身体拘束に対する意識を高めている。家族さんともその都度、よく話し合うように努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中でも確認するように努めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で、その状況に応じての支援ができるように努めている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	その都度、必要に応じて、連携を取って対応をしている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応についてのマニュアルがあり、勉強会もしている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	社内研修や勉強会などで理解しており、実技の勉強会もしている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故発生時には、速やかに事故報告書を書いてもらっている。毎月ヒヤリハットを書いてもらい、毎月の職員会議で検討している。業務改善報告書も書いてもらっている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故発生時には、事故報告書に基づき、朝の申し送り時に確認をしている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情の受付窓口を設けており、苦情があった場合は、代表や管理者に報告している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情報告書に記入し、必要時には、市に報告相談をしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情のある時は、速やかに対応をして、前向きな話し合いと改善ができるように努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	利用者さんにも運営推進会議に参加してもらって、意見や要望を言ってもらっている。又、日頃から、何でも言いやすい雰囲気作りにも努めている。	/	/	○	運営推進会議や家族会の場で意見を聞く機会があるほか、普段の利用者同士の会話の中から本音の意見を得ることが多く、職員は常に話を聞き取ることに注意を払っている。家族からの意見は、運営推進会議でもらっている。家族会は年1回実施し、家族だけで話し合える時間も設け、教えてもらっている。管理者は、職員からの意見は朝の申し送りなどで聞き、日々の業務の中でも話し合う機会を設けて聞いており、常にサービス向上につながるよう検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	事業所の相談窓口を設けており、運営推進会議や個別にも伝えやすいように努めている。	○	/	◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族会や、運営推進会議などで伝えている。又、普段から気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気作りにも努めている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	定期的に各ユニットを回って、利用者さんや職員に声を掛けてくれている。又、その都度意見や要望に対応してくれている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	朝の申し送りや、職員会議を利用して検討をしている。又、必要時には、代表にも参加してもらっている。	/	/	○	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	必要に応じて、朝の申し送り時を利用して、出来るだけ全員で確認をするようにしている。	/	/	/	事業所内での自己評価は毎年行い、定期的な見直しの機会を持って業務改善につなげている。運営推進会議でサービス評価の結果を伝えているが、その後の取組みに関する成果について十分な聞き取りができていない。今後は、取組みに関する定期的な意見交換が実施されることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。	/	/	/	
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議や家族会などで報告して、意見や意向を伺っている。	○	◎	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	毎月の職員会議で確認をするようにしている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	マニュアルを作成しており、社内研修や勉強会で学ぶ機会がある。年に1回市の危機管理課にお願いして勉強会を開催している。	/	/	/	あらゆる場面を想定し、内容の違う訓練を毎月行っている。法人内で災害に対する相互協力体制を作り上げ、安全確保のため他のグループホームへの移動や、他のグループホームから受け入れる物資を融通するなど、シミュレーションを実施し、緊急災害時の協力支援体制を整えている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	毎月、色々な場面を想定して避難訓練を実施している。年2回消防署員の立会での訓練をし指導してもらっている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	年に2回安全パトロールをして、消火設備や避難経路、非常用の食料や備品の確認をしている。外部に依頼して消防設備の点検も年2回行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署とは、定期的な連携を取って、避難訓練に立ち会ってもらったり、緊急時の対応について実技指導をしてもらっている。	△	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	災害時を想定した地域のネットワークには、代表が積極的に参加してくれている。消防や警察の方とは、運営推進会議にも参加してもらっており、その都度、相談や指導をもらっている。同一事業所内では、協力して災害対策に取り組んでいる。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	市と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。毎月、認知症カフェを開催したり、運営推進会議でもミニ介護講座を取り入れている。高校の授業で講演にも行っている。	/	/	/	関係機関と協力しながら地域の介護や福祉に関する総合相談窓口として様々な相談を受けている。認知症カフェを行い、介護に関連する研修生の受け入れや認知症サポーターの養成などにも取り組んでおり、活動はひよこ通信で報告している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	毎月の認知症カフェ開催時に相談支援を行っている。又、いつでも相談支援ができるように努めている。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	○	毎月、認知症カフェを開催しており、ボランティアの方が、コンサートを開催してくれたり、手品やよさこい踊りなどを披露してくれている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	実践者研修やリーダー研修などで実習生の受け入れをしている。フィリピンからの実習生も受け入れている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	地域のボランティアや市の相談員、学校、保育園、事業所、医療機関と交流があり、イベントにも参加している。年1回、夏祭り大会を開催し、地域の方にも参加してもらっている。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年9月18日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 32名	(依頼数) 45名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870600297
事業所名 (ユニット名)	グループホーム フルーツの家2階 3ユニット
記入者(管理者) 氏名	子守 由美
自己評価作成日	令和元年8月5日

<p>【事業所理念】</p> <p>和やかで笑顔あふれる生活づくり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>カルテに介護計画のサービスの内容の実施状況を記録したり、変化や気付きなどを赤のペンで記入して、みんなで情報を共有していくことに取り組んできたが、変化や気付きなどを赤ペンで記入しているが、十分に出来ていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所開設から19年が経っているが、建物内は明るく清潔感があふれ、観葉植物や花もあり、居心地の良い空間が作られている。ユニット間の交流があり、また関連するサービスとの交流も行われ、利用者にとっての「我が家」の中で様々な他者との心の交流が見られている。建物内に認知症カフェを開催する場所があり、外部の人の出入りもしやすい雰囲気が備わっている。地域の介護や福祉の拠点として機能し、相談や研修機能も充実している。日々の利用者の状況に応じた分析と検討、介護に関する記録の整備に取り組み、利用者の変化や職員の気づきについて記録ができるよう取り組んでいる。</p>
---------------------------------------	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人さんや家族の方が意向を言いやすいような雰囲気に心がけており、得た情報はフェイスシートやアセスメントシートを利用し、職員間で情報の共有を行っている。	○	/	○	昔の生活、今の生活、今できることなどの情報を把握し、シートにまとめている。また、担当者が似顔絵を描き、利用者の人となりユニークに視覚化することもできている。新たな情報を入手すると赤字で加えることで内容は豊かなものになっている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	家族の方に相談したり、本人さんの表情や言葉から思いをくみ取れるように努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族さんや友人の方が面会に来られた時に、情報が得られるように努力をしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して、職員間で共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	カルテの中にフェイスシートやアセスメントシート、介護計画書を入れており、利用者さんの発する言葉や表情等を大切に、日々確認しながら支援している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して職員間で共有している。また、同一法人内の他事業所を利用していた方に関しては、情報を提供してもらっている。	/	/	○	利用者や家族から得られた生い立ちや性格、趣味や職業、生活リズムなどの情報をフェイスシートやアセスメントシートにまとめている。基本的には6か月ごとに情報の見直しを行い、新たなフェイスシートなどを作成している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の生活の中で気付いたり感じたことを申し送り時等を利用して話し合ったり、フェイスシートやアセスメントシートなどに記入して現状を把握するように努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。又、病状の変化についてはカルテに記載して、医師からの指示は、赤字で囲みわかりやすくしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	カルテや入居者情報、排泄記録表等を用いて把握しており、毎朝の申し送りでも伝えて行っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カルテにアセスメントシートを入れており、気づきや状態の変化などを記入している。家族さんから得た情報も記入して、朝の申し送りに伝えている。	/	/	○	把握した情報を基にして、日々の関わりの中で観察できたことを「入居者情報」や「摂取及び排泄記録表」にまとめて朝・夕の申し送りで共有し、複数の職員で検討を行っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行い、朝の申し送り時等を利用して検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	気づきや状態の変化はアセスメントシートやケアプラン等の空スペースに記載するなどして、介護計画書の見直しに活かしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	介護計画書やアセスメントシートをカルテに入れており、気持ちや思いを空スペースに記載するなどして検討している。	/	/	/	利用者や家族、管理者、計画作成担当者、介護職員などが集まり一緒に話し合うことで介護計画を作成している。家族が出席できない場合は事前に文書で意向を確認している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、介護計画書の見直しをしようとしている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意向を把握しにくい方に関しては、家族さんに相談したり、本人さんの表情や言葉からくみ取れるように努力している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族さんや地域の人が意向を言いやすい雰囲気心掛けており、得た情報などを介護計画書に落とせるように努めている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	介護計画は個人ファイルの経過記録の中に綴じており、常に確認しやすいようにしている。毎月ケアの実施状況を確認し、6か月を基本としてモニタリングを行っている。利用者の日々の様子については、言葉や行動、エピソードなどを細かく記録している。今後はさらに支援している職員が気がついたことや思ったこと、アイデアを記載していくことを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	3ヶ月から6ヶ月でモニタリングをして申し送り時等を利用して確認している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	カルテや入居者情報に記入している。又、受診状況や思ったことなどはAP覧も利用している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	カルテのAP欄に記入するように努めている。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行っている。	/	/	/	計画の期間ごとや退院時など状態の変化があった時に、利用者ごとの担当者がアセスメントを行って変化に対応している。また、毎月モニタリングを行って目標達成状況を数値で表している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院、退院等の時等、状態の変化時は、適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞いている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	適宜、ケース検討会やサービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、その都度介護計画書の見直しをしている。	/	/	/	サービス担当者会議を適宜実施し、6か月ごとの計画見直しを基本としている。さらに、退院後の場合は3か月の段階においても見直しを行っている。会議に出席できない場合は、議事録を回覧したり、大切なことは申し送ったりするなど、情報が確実に伝わるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃から、意見を言いやすい雰囲気作り心掛けている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	職員会議や行事ごとのある日の申し送り時等を利用してしている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を確認してもらったり、大切なことは、申し送り時に入居者情報に記載して、全員が確認できるようにしている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	回覧を確認してもらって、サインをもらっている。又、申し送り時に伝えている。	/	/	/	「入居者情報」シートを活用し、利用者に関する情報を朝夕の申し送り時に伝えている。医療的な情報の記録については、赤字の枠で囲むなど、確認しやすいよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り時にすべての職員に情報が伝わるまで繰り返し伝えている。又、回覧や議事録などに確認のサインをもらうようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その人に合わせて、その日をどう過ごしたいかを尋ね、出来る限り利用者の方のペースに合わせてるように努めている。	/	/	/	日々の気分に合わせて飲み物が選べるようにし、衣服も自分の好みのものが選べるようにしている。散歩やカレンダー塗り、パズル、生け花など、利用者個々の一番したいことを楽しみながら取り組んでもらうようにしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	10時の水分補給時には、コーヒーや紅茶等の中から自己決定できるように努めている。更衣する時は居室のタンスの所に行ってその日に着たい服を選んでもらっている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	質問はわかりやすく、相手が言えるような声掛けをするように心掛けている。会話の中でも、思いや希望が伝えやすいような雰囲気づくりに努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	「ちょっとまってよ。」の言葉を禁句として、ひとりひとりの思いを大切に寄り添うように心掛けている。体調が悪い時は無理をしないように心掛けている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりにしている。	○	人生の先輩として人格を尊重して関わりを持つように心掛けている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人さんの言葉や表情から想いがくみ取れるように努めている。スタッフからも何々ですか?と具体的に聞き表情などで判断している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けている。	○	◎	○	職員は人権や尊厳について、研修で学ぶ機会があり理解して共有しており、プライバシーの尊重を常に意識しながら日々のケアに努めている。トイレ誘導などの際には、周囲にわからないようさりげない声かけを徹底している。訪室時には必ずノックや声かけをしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けており、職員同士でも声を掛け合って常に気をつけるようにしている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	○	声掛けの仕方を工夫するなどして、自尊心を損ねる事の無いように、その人らしさを尊重するような対応を心掛けている。排泄時も外でそっと見守りしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る時は、必ず、ノックや声掛けをしている。又、他の利用者さんが間違っははらないように気を付けて見守り声かけなどを行っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、職員同士も声を掛け合って注意をしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者さんに助けを求めたり教えてもらった時は、感謝の言葉やお礼を声や態度に出して伝えるように努めている。出来る限り一緒にできる事ははしてもらって、感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	仲の良い利用者が近くに集まり、他の利用者の移動を手伝うことや、場所を離れようとする行動を職員にも伝えてくれる状況がある。仲間と一緒にぞうきん作りやパズルゲームなどを行って楽しい時間を過ごせるようになり、利用者同士良い関係が築けるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	日々の生活の中で、職員が間に入り、状況に応じて見守りを行い、利用者さん同士が助け合い、支えあって生活できるように配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらった場面をつくる等)。	○	仲の良い、気の合う人が穏やかに過ごせるように、また、孤立する利用者さんがいないように、ホールでの座席に気を付けて配置している。行事等の時は、世話役の人にも前もってお願いをして、円滑に物事が進むよう努めている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	状況に応じて、職員が中に入り、場所や雰囲気を変えたりしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人さんとよくお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人さんとよくお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの場所ドライブなどで出かける事はあるが、知人や友人に会いに行くのは少ない。知人や友人の方が面会に来られた時は、一緒に過ごせるように配慮している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会に来られた時は、居室やホールでゆっくりと我が家のように過ごせるように配慮している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	その人に合わせて、出来る限り利用者の方のペースに合わせてるように努めている。併設の通所介護が外出の際に、乗車定員に余裕があれば、声を掛けてもらい一緒に外出もしている。外出が難しい時は、庭を散歩したり、花を見たりしている。	○	×	○	近くの保育園の運動会に招かれたり、花見や初詣など季節を感じる場面で外出したりしている。重度の利用者を含め、併設のデイサービスに行ったり、テラスに出て外気浴を行ったりして気分転換を図るようにしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	毎月、認知症サポーターやボランティア、地域の方の協力を得て、認知症カフェに参加させてもらっている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調の良い時は庭に出て散歩をしたり、花を見たりしている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	利用者さんの希望で買い物に出掛けたり、家族の方の協力を得て自宅へ帰ったりできるように支援している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めている。	/	/	/	利用者個々の今できることを把握し、アセスメントシートの中の「できること」に記載して職員間で情報を共有している。利用者には洗濯やぞうきん作り、調理の下ごしらえなどを取り組んでもらっており、職員は極力手伝わす見守りを心がけている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めており、その人に合った声掛けや支援を心掛けている。看護師や医師にも相談している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、その人の持っている力が発揮できるように根気よく声掛け見守りをしている。家事全般が得意な人には、日課としてもらうようにしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握するように努めている。	/	/	/	ホールの花瓶に花を活けることや、お茶をたてること、下膳や配膳などの手伝いをすることなど、利用者個々に役割や出番を作るようにしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握して、日頃から、利用者さんが何をしたいかを常に考えながら支援している。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の観光スポットを見に季節ごとのお花を見に行ったり、お祭り、初詣などに行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	入浴時や更衣の時は、なるべく服を選んでもらうようにしている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら、髪をといてもらったりしている。	/	/	/	衣服の乱れや食事の食べこぼしなどは、周囲に気づかれないようにさりげなくカバーしている。重度な利用者を含め、毎日好みの衣服に着替えてその人らしさが保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	出来るだけ利用者さんの希望がかなうように、本人、家族さんと相談して用意して、居心地良く過ごせるようにしている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族さんの情報や普段の何気ない会話の中から把握して、支援できるように努めている。好きな色や柄などもできるだけ聞くようにしている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族さんと本人さんと相談して、季節や行事の合わせて、その人に合う服を着るようにしてもらっている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	一人一人の思いやプライドを大切にしながら、さりげなく声掛け見守りしながら、支援している。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ホームにも月1回美容師さんが来てくれているが、希望のある方は、家族さんに協力してもらって望みの美容室へ行っている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人さんの思いを大切に、その人らしさが保てるように家族さんの協力も得て支援している。	/	/	○	
		g	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	社内研修で学べる機会があり、理解できている。	/	/	/	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	社内研修で学べる機会があり、理解できている。	/	/	/	グループ内の栄養士が献立を作り、ユニット内にある調理場で調理される様子を見ることができ、匂いを楽しむことができる。利用者には調理の下ごしらえや下膳などをできる範囲で手伝ってもらっている。献立や味付けに関する意見や感想を利用者同士の会話の中から拾い、職員が栄養士に伝え、献立や味付けなどに反映させている。利用者の状況に応じてスプーンやフォーク、ストローなどを使い、一口大のカットや食材をすりおろすなどの食べやすさについても工夫されている。職員は利用者と一緒に同じ食卓を囲んで食事しながら、利用者のサポートをしている。重度の利用者を含め、献立の会話をしながら調理ができて上がるのを心待ちにしている。栄養士が利用者の希望を踏まえ献立を作成しており、職員間で定期的に栄養バランス等について話し合っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食事作りは厨房スタッフがやっているが、料理の下ごしらえ等は、一緒に手伝ってもらっている。片付けや洗ひ物は、出来る利用者さんが時々してくれている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝ってもらった時には、感謝の気持ちを伝え、一緒に喜んでる。又、ホールには、スタッフが献立を手書きし、利用者さんとに食事を楽しんでもらっている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	カルテに記入したり食事確認表を作っており、いつでも確認できるようにしている。食べれないメニューがあれば、その都度変更している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	献立は、栄養士さんが栄養面や季節の物を考慮して立ててくれている。お正月、節分、雛祭り、敬老の日などは折詰弁当を提供している。利用者さんの好みや苦手な物、アレルギーにも配慮してくれている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人一人の食事の確認をしながら、彩や添え物に工夫して提供してくれている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食器は、滑りにくい物を使っている人もいる。お箸は本人専用のお箸を使っている人もいる。	/	/	/	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も利用者さんと同じ食卓を囲んでなるべく一緒に食べるようにしている。介助のいる利用者さんのそばで食べたりの配慮をしている。	/	/	/	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	その時の献立を伝えて、食事のでき具合や、臭いを伝えながら会話をしている。皆が過ごすホールと厨房が近いように設計されており、厨房内も見えやすい。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士が栄養バランスを考えて献立をたててくれている。水分量は、一日の摂取量を個人別に記録している。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	摂取及び排泄記録表に、食事や水分量を記入し、必要量が確保できるように心掛けている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している。水分が摂りにくい利用者さんには、コーヒーやジュースなどに変更して摂取してもらっている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	利用者さんや職員の希望をお願いして、栄養士さんが献立をたててくれている。	/	/	◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	厨房スタッフが、栄養士さん指導の下、気を付けてしてくれている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	社内研修で勉強をする機会があり、食後には、口腔ケアを行うように努めている、				毎食後の口腔ケアを行い、利用者個々の口腔内の状況については把握しており、常に口腔内の清潔を保ち健康状況が継続できるよう努めているほか、月2回の訪問歯科診療を受けられる体制を整えているなど、万全を期している。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	定期的に歯科往診があり診てもらっている。食後の口腔ケア後もスタッフが確認している。			◎		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科医より、指導を受けており、口腔状況提供書に基づいて支援している。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	訪問歯科さんの指導の下、支援している。週に1回ポリドントもしている。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、声掛け見守りをして、確認をしている。又、月2回の訪問歯科の時に口腔ケアをしてくれており、指導してもらっている。			◎		
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	異常のある時は、訪問歯科さんに相談して、治療してもらっている。					
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。				他の利用者がトイレに行く際に声をかけるなど、トイレでの排泄を基本として支援している。おむつの使用者や日中布パンツで過ごす利用者もいるが、使用の必要性などについては、職員間で話し合いその時の状態に応じて支援している。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄記録表をチェックして把握している。					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、トイレの声掛けをしている。オムツの使用は、出来るだけ声掛けやトイレ誘導をしてトイレに座ってもらうようにしている。			◎		○
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。便秘の場合は、医師の指導のもと、下剤を内服してもらっている。					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。排泄の間に合わない人は、早めの声掛けを行っている。					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	おむつの使用などの排泄方法については、利用者の状態に合わせて、申し送り等で検討して、家族さんにも了解をもらって使用している。					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人一人の排泄のパターンを把握して使用している。					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食物繊維の多い食材を毎日食べてもらっている。水分も十分に補えるように声掛けをしている。又、ホーム内の散歩を積極的に行ってもらっている。					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	出来るだけ、希望に添えるように努力している。曜日などは決めておらず、基本希望があれば入ってもらっている。			◎	○	通常は週2回、夏場は週3回の入浴を基本としており、毎日入浴する利用者もいる。夕方の入浴など、利用者からの要望があれば臨機応変に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	転倒などのリスクがあるのでスタッフが側で見ているが、利用者さんの体調を確認しながら、ゆっくり入浴できるように支援している。					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる事は、見守り声掛けをしながら、自分でしてもらい、出来ないことの支援をしている。					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	その時の状態を確認しながら、声掛けをして、無理強い無いうように努めている。時間帯を考えたスタッフを交代して、気持ちよく入ってもらい工夫している。					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックや体調の確認をしている。入浴後は、水分を取ってもらい、疲れていれば居室で休んでもらっている。					

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	申し送り等やカルテを見てその人の睡眠パターンを確認している。	/	/	/	眠剤を飲む利用者は少なく、昼間は起きて15時には散歩をするなど様々な活動を行うことにより安眠できる生活リズムができています。夜間起きた利用者には、事務所でお茶を飲んでもらい会話をすることで安眠できるようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	その人の睡眠パターンを確認して、その人に応じて時間帯を考えて居室で休んでもらえるように心掛けている。また、日中の過ごし方にも注意している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	出来るだけ、睡眠導入剤や安定剤は内服しないで過ごしてもらうようにしている。日中はなるべく活動してもらうように工夫している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の状態に合わせて、休息や昼寝をしてもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人さんの希望に合わせて、電話や手紙を書いてもらっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話を掛ける時は、家族さんにも了解を得て協力してもらっている。手紙を書きたいときは、一緒に書くようにしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族さんに了解を得て、協力してもらっている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙が届いた時は、本人さんと相談して、電話で伝えたり、手紙を書いたりしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族さんにも、協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	社内研修や勉強会などで理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持っていない人は、事務で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物をしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	日頃から、理解と協力をお願いしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	利用者さん自身、管理できない人が多いので、外出した時等に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、買い物をしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に話し合っている。自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持っていない人は、事務で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物ができる事を伝えている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に話し合っている。利用者さん自身、管理できない人場合は、外出した時に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、了解を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々々の様々なニーズに対して、代表と相談しながら柔軟に取り組んでいる。	◎	/	○	帰宅願望の強い利用者の中には、外出や外泊などを活用し、今までなじみのある散髪さんに行くなど家族の協力も得ながら様々なニーズに対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物は、鉄骨2階建てで優しい雰囲気にしており、敷地内には広い駐車場が完備されており、畑や緑を多くした中庭があり、環境面に配慮している。	◎	◎	○	玄関外でメダカを育て、玄関にはベンチを設けている。訪問者が来た際にはリビングから見える状態になっており、会話や挨拶が気軽にできる環境である。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	ホールは、季節の花や行事ごとに応じた物を飾るようにしている。テーブルやソファは、状態に応じて配置換えもしている。隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	○	◎	○	ユニット間の行き来がしやすい構造になっており、広々として快適な空間となっている。1日2回の掃除では、利用者が掃除機での掃除を役割として行うなど、利用者と職員が共に我が家をきれいにしようという意識が高い。リビングやホールには花が活けてあり、季節感が感じられる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	眩しい光には、レースのカーテンやブラインドを使って調整している。不快な音や大きな音は、出ないように気を付けている。定期的に掃除をし、臭いにも気を付けている。			◎		
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、観葉植物を置いている。窓からは、中庭が見え、木を植えているので、緑を楽しんでもらっている。又、行事ごとの飾りもしている。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレや浴室は、ホールから直接見えないう位置にあり、明り取りの窓は上方にあり、すりガラスにしている。					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家で使っていたテーブルや椅子、化粧台など持って来て使ってもらっている。本人さんと家族さんと相談して、居心地よく生活できるようにしている。	◎		○	ベッドやエアコン、テレビ台などが備わっており、馴染みの写真や飾り物を置くなど自分好みの空間作りがされ、居心地よく過ごせるようになっている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	建物内はバリアフリーで、各所に手擦りを設置している。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。			○	バリアフリー化され移動しやすい環境であり、居室のドアには果物の写真が貼られて部屋をわかりやすくしている。鈴のついた飾り物を取り付けて目印にするなどの工夫もみられ、利用者が安全に自立した生活が送れるようにしている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	常に環境整備を行い、動線には物を置かないように心掛けている。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌、本は、いつでも自由に見れるように、ホールの棚に置いている。掃除道具や趣味の物は、所定の所に置いているが、利用者さんが希望すれば、いつでも用意できるようにしており、日々の会話や態度で、感じ取れるように努めている。裁縫道具とポットは危険な場合があるので、事務所に置いている。					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	基本ユニットの入り口には、鍵をかけていない。やむを得ず職員の目が届かない状況の時や利用者さんが落ち着かない時だけ施錠している。居室は、鍵はかけていない。	◎	◎	○	職員は玄関などの出入口に施錠することの弊害について理解しており、玄関などは施錠されておらず、自由に出入りすることができる。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時等に家族さんと話し合いをしている。入居時の落ち着かない時ややむを得ない時以外は、施錠があたり前にならないように努めている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	入口はやむを得ない時以外は施錠はしていない。ユニット間は、施錠をしないで自由に行き来できるように配慮している。外部との出入り口には人が通るとチャイムが鳴るようになっており、鳴ったらスタッフがその都度確認している。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	カルテに、フェイスシートを入れており、病気や留意事項が一目でわかるようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の様子をカルテに記載している。毎日、バイタルチェックをし温度表にグラフ化している。異常があれば看護師や医師に相談している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	訪問看護が併設しており、かかりつけの医師による往診も月2回あり、訪問看護師に同行してもらっている。異状時や気になることがあれば、相談し、協力してくれている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	利用者さんの受診状況等は、カルテに記載している。状態に応じて、協力病院で受診が行えるようになっている。また、本人さんや家族さんの希望を大切にし、馴染みのかかりつけ医での受診も行っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入居時に本人さん、家族さんと話し合いを持ち、柔軟に対応をしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診や通院が必要な時は、家族さんと話し合いをしている。また、受診後は、その都度、家族さんに結果を報告し、カルテにも記載している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時は、介護要約で情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	主治医、病棟部長、ケースワーカーとの連携を持ち、退院時の受け入れ状態を整えるように努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	普段よりケースワーカーとのかかわりを持ち、医療機関の勉強会に参加するなど関係づくりに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護が併設しており、看護師が利用者さんと関わる時間も、相談もしている。情報や気付きは常に看護師に報告しており、健康管理や医療面でも協力してもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	異常時や緊急時の時は、いつでも相談している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	カルテに処方箋を入れている。変化のある時は、申し送り時に伝えている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬袋には、名前、日にち、いつ内服するかを記入しており、仕分けする時、内服する時、内服した後も確認するようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	医師や看護師には、月2回の往診時に伝えている。家族さんにも面会時や、電話で伝えている。				

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態の変化に合わせて、その都度、本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、確認もしている。現時点での緊急時の対応についての意思の確認書をカルテに入れている。	/	/	/	看取りに関する指針、延命処置に関する意思確認書を準備し、利用者や家族に同意を得ている。利用者や家族の考えを聞き取り、常に確認を取りながら医師など関係者を交え話し合い、方針を共有している。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	○	◎	/		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	併設の訪問看護師への相談、協力を得て、職員ともよく話し合っている。	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	代表、訪問看護師と共に取り組んでいる。	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族さんの思いを大切に、家族さんの気持ちを理解して、誠実に対応している。	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。	/	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。ノロウイルス等での汚物処理の仕方については、マニュアルカードを作っており、汚物処理セットも用意している。	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	保健所や行政の勉強会などがあれば、参加している。感染症発生状況も情報もインターネットなどを通じて早く取り入れるようにしている。	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症発生状況や情報はインターネットなどを通じて早く取り入れ、早めに対応を取るよう努めている。	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	洗面所には、手洗いの手順を置いており、薬用ハンドウオッシュとヒビスコール、ペーパータオルを設置している。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時にはゆつくと過ごしてもらい、生活状況の説明をしている。状態の変化時には、随時報告している。行事などもできるだけ参加してもらるように努めている。	/	/	/	家族に手紙や年賀状を出してつながりを持つようしており、家族会や運営推進会議への定期的な参加や、月間の行事予定を見て来てくれる家族が多い。また、家族から手紙や暑中見舞いなどが利用者あてに届いた時には電話をして話すなどの援助をしている。家族会や運営推進会議の際に、事業所の運営上の出来事や経過などについて報告をしているが、一部の家族の理解が得られていないため、全ての家族の理解が得られるよう報告方法などの工夫が望まれる。家族の面会時には、職員が必ず声かけをして利用者の日頃の様子を伝え、家族は気軽に相談している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族さんがいつでも気軽に訪問してもらえるような雰囲気作りを心掛けている。小まめに生活状況や体調の変化などを伝えている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事などには、出来るだけ利用者さんと一緒に過ごしてもらえるように参加の呼びかけをしたり、行事の内容を掲示板や社内報で報告するようにしている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	利用者さんのホームでの生活を手紙でお知らせしている。その時に写真も添えている。又、社内報も送付している。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族さんや利用者さんの思いを本音が聞けるように努め、話し合ったり相談して対応をしている。運営推進会議や家族会などを開催して、家族さんからの意見を聞いて改善して行っている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時に生活状況の報告や体調の変化を伝え、職員も一緒に会話の中に入ってコミュニケーションをとるようにしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議や家族会などで報告をしたり、日頃の生活をスライドショーにして見せている。新規採用があれば紹介している。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議や家族会などでは、家族同士でお話をする機会を持ってもらっている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時に説明をするようにしている。その後も必要時において話し合いをしている。職員は社内研修にて、虐待および身体拘束についての勉強会をしている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族さんがいつでも気軽に声を掛けてもらえるような雰囲気作りを心掛けている。面会時には、生活状況や体調の変化などを伝えている。又、必要に応じて電話でも伝えている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約等の変更のある時は、必ず、理解と納得が得られるように具体的に説明をして承してもらっている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の時も利用者さん、家族さんに決定過程を明確にして納得が得られるように具体的に説明をして承を得ている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時及び料金改定時には、文書で示し、家族会の開催時等に説明し同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議に参加してもらったり、イベントに招待したり、招待して頂いたりしながら、理解をはかっている。	/	◎	/	近くで行われるお花見会や運動会に出かけることや、お祭りのだんじりが立ち寄り祭りの雰囲気を楽しむことで地域交流ができています。また、近所の保育園児、ボランティア団体との交流もある。認知症カフェを建物内で行い、地域の方々が参加する活動を長年継続するなど、地域とのネットワークづくりに努めているが、地域住民の理解が不十分なため、今後は地域からの理解が十分得られるようなネットワークづくりの構築に取り組んで欲しい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	市の相談員、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントにも参加している。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっている。又、月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	認知症カフェに参加して下さっているボランティアの方の支援が増えている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	認知症カフェもあり、気軽に立ち寄ってくれていると思う。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	ホームの周りに民家はないが、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントに参加させてもらっている。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近所の保育園や事業所との交流があり、観覧会や運動会イベントに招待してくれたり、訪問してくれている。又、認知症カフェに来てくれるボランティアの方が、コンサートを開いたり、手品をしてくれたりしている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域のイベントに参加したり、ホーム内でも他のユニットや、デイサービスに遊びに行ったりしている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近所の保育園や事業所との交流がある。月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。運営推進会議や避難訓練時に警察や消防の方に来てもらっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	参加者が、参加しやすいように年間行事を立てて案内しており、参加もしてくれている。	○	/	◎	運営推進会議は利用者や家族、保育園、警察署、民生委員、市職員など、多くの参加者で構成されている。グループでの意見交換の時間を取り、参加者からの意見を得やすい仕組みができており、得られた意見は、今後の運営のため話し合いの場を設け、サービス向上に活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者さんのサービスの実績や評価の取り組みなどは、その都度、報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で出された意見や提案などは、参加者に報告書を提出している。状況や結果は報告できていないこともあるが、事業所内全体で、改善するようになっている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマによって警察官、消防員など様々な方に参加してもらえるように努めている。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	参加者には、議事録を郵送している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は、利用者さん一人一人が笑顔で穏やかに生活を送ってもらえるようにとの思いを持って、日々取り組んでいる。朝の申し送りでも共有できるようにスタッフ全員で理念を復唱している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	各ユニットも事務所には、理念や目標を掲げている。パンフレットにも記載している。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	社内勉強会や実技研修は、毎月開催している。勤務年数に応じての研修もしている。	/	/	/	社内勉強会や実技研修会を毎月実施し、新人研修、勤務経験に応じた研修などが実施されている。職員は年1回ストレスチェックを受けられるほか、必要に応じて医療機関で相談できる体制を整え、ストレス軽減に努めており、職員が働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月、社内研修や勉強会を開催しており、勤務年数に応じての研修もしている。又、資格取得に対しての支援もしている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は、管理者や個々の職員の努力や勤務状況を把握し、その都度話し合う機会をもっている。資格取得に対しての支援もしており、やりがいや向上心を持って働けるような環境づくりに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	西条市の連絡会に参加したり、相互研修に参加して、サービスの質の向上に努めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年に1度、ストレスチェックをして、その結果を通して対応している。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。	/	/	/	社内勉強会において虐待防止に関する研修を年1回行い、さらに身体拘束に関する検討委員会があり、毎月検討する時間を設けており、職員は不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順などについて理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎朝の申し送り時や部署会などで話す機会を持っている。また、いつでも話やすい雰囲気づくりを心掛けている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。利用者さんの内出血や表皮剥離などの異状を発見した時は、事故報告書を書いてもらい、検討している。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	出勤時には、職員の顔色や表情などの確認をしている。又、お互いが注意したり相談できる雰囲気作りにも努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	職員は、社内研修や勉強会で理解し、日頃から身体拘束に対する意識を高めている。家族さんともその都度、よく話し合うように努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中でも確認するように努めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で、その状況に応じての支援ができるように努めている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	その都度、必要に応じて、連携を取って対応をしている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応についてのマニュアルがあり、勉強会もしている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	社内研修や勉強会などで理解しており、実技の勉強会もしている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故発生時には、速やかに事故報告書を書いてもらっている。毎月ヒヤリハットを書いてもらい、毎月の職員会議で検討し、業務改善報告書を書いている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故発生時には、事故報告書に基づき、朝の申し送り時に確認をしている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情の受付窓口を設けており、苦情があった場合は、代表や管理者に報告している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情報告書に記入し、必要時には、市に報告相談をしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情のある時は、速やかに対応をして、前向きな話し合いと改善ができるように努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	利用者さんにも運営推進会議に参加してもらって、意見や要望を言ってもらっている。又、日頃から、何でも言いやすい雰囲気作りに努めている。	/	/	○	運営推進会議や家族会の場で意見を聞く機会があるほか、普段の利用者同士の会話の中から本音の意見を得ることが多く、職員は常に話を聞き取ることに注意を払っている。家族からの意見は、運営推進会議でもらっている。家族会は年1回実施し、家族だけで話し合える時間も設け、教えてもらっている。管理者は、職員からの意見は朝の申し送りなどで聞き、日々の業務の中でも話し合う機会を設けて聞いており、常にサービス向上につながるよう検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	事業所の相談窓口を設けており、運営推進会議や個別にも伝えやすいように努めている。	○	/	◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族会や、運営推進会議などで伝えている。又、普段から気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	定期的に各ユニットを回って、利用者さんや職員に声を掛けてくれている。又、その都度意見や要望に対応してくれている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	朝の申し送りや、職員会議を利用して検討をしている。又、必要時には、代表にも参加してもらっている。	/	/	○	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	必要に応じて、朝の申し送り時を利用して、出来るだけ全員で確認をするようにしている。	/	/	/	事業所内での自己評価は毎年行い、定期的な見直しの機会を持って業務改善につなげている。運営推進会議でサービス評価の結果を伝えているが、その後の取組みに関する成果について十分な聞き取りができていない。今後は、取組みに関する定期的な意見交換が実施されることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議や家族会などで報告して、意見や意向を伺っている。	○	◎	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	毎月の職員会議で確認をするようにしている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成しており、社内研修や勉強会で学ぶ機会がある。年に1回市の危機管理課にお願いして勉強会を開催している。	/	/	/	あらゆる場面を想定し、内容の違う訓練を毎月行っている。法人内で災害に対する相互協力体制を作り上げ、安全確保のため他のグループホームへの移動や、他のグループホームから受け入れる物資を融通するなど、シミュレーションを実施し、緊急災害時の協力支援体制を整えている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	毎月、色々な場面を想定して避難訓練を実施している。年2回消防署員の立会での訓練をし指導してもらっている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	年に2回安全パトロールをして、消火設備や避難経路、非常用の食料や備品の確認をしている。外部に依頼して消防設備の点検も年2回行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署とは、定期的な連携を取って、避難訓練に立ち会ってもらったり、緊急時の対応について実技指導をしてもらっている。	△	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	災害時を想定した地域のネットワークには、代表が積極的に参加してくれている。消防や警察の方とは、運営推進会議にも参加してもらっており、その都度、相談や指導をもらっている。同一事業所内では、協力して災害対策に取り組んでいる。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	市と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。毎月、認知症カフェを開催したり、運営推進会議でもミニ介護講座を取り入れている。高校の授業で講演にも行っている。	/	/	/	関係機関と協力しながら地域の介護や福祉に関する総合相談窓口として様々な相談を受けている。認知症カフェを行い、介護に関連する研修生の受け入れや認知症サポーターの養成などにも取り組んでおり、活動はひよこ通信で報告している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	毎月の認知症カフェ開催時に相談支援を行っている。又、いつでも相談支援ができるように努めている。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	毎月、認知症カフェを開催しており、ボランティアの方が、コンサートを開催してくれたり、手品やよさこい踊りなどを披露してくれている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	実践者研修やリーダー研修などで実習生の受け入れをしている。令和1年7月より、フィリピンからの実習生を受け入れている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域のボランティアや市の相談員、学校、保育園、事業所、医療機関と交流があり、イベントにも参加している。年1回、夏祭り大会を開催し、地域の方にも参加してもらっている。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年9月18日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 32名	(依頼数) 45名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870600297
事業所名	グループホーム フルーツの家
(ユニット名)	4ユニット
記入者(管理者)	
氏名	子守 由美
自己評価作成日	令和元年8月5日

<p>【事業所理念】</p> <p>和やかで笑顔あふれる生活づくり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>カルテに介護計画のサービスの内容の実施状況を記録したり、変化や気付きなどを赤のペンで記入してみんなで情報を共有していくことに取り組んできたが、変化や気付きなどを赤ペンで記入することは出来ているが、十分に出来ていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所開設から19年が経っているが、建物内は明るく清潔感があふれ、観葉植物や花もあり、居心地の良い空間が作られている。ユニット間の交流があり、また関連するサービスとの交流も行われ、利用者にとっての「我が家」の中で様々な他者との心の交流が見られている。建物内に認知症カフェを開催する場所があり、外部の人の出入りもしやすい雰囲気が備わっている。地域の介護や福祉の拠点として機能し、相談や研修機能も充実している。日々の利用者の状況に応じた分析と検討、介護に関する記録の整備に取り組み、利用者の変化や職員の気づきについて記録ができるよう取り組んでいる。</p>
---------------------------------------	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思い暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人さんや家族の方が意向を言いやすいような雰囲気に心がけており、得た情報はフェイスシートやアセスメントシートを利用し、職員間で情報の共有を行っている。	○	/	○	昔の生活、今の生活、今できることなどの情報を把握し、シートにまとめている。また、担当者が似顔絵を描き、利用者の人となりユニークに視覚化することもできている。新たな情報を入手すると赤字で加えることで内容は豊かなものになっている。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	家族の方に相談したり、本人さんの表情や言葉から思いをくみ取れるように努めている。	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族さんや友人の方が面会に来られた時に、情報が得られるように努力をしている。	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して、職員間で共有している。	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	カルテの中にフェイスシートやアセスメントシート、介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して職員間で共有している。また、同一法人内の他事業所を利用していた方に関しては、情報を提供してもらっている。	/	/	○	利用者や家族から得られた生い立ちや性格、趣味や職業、生活リズムなどの情報をフェイスシートやアセスメントシートにまとめている。基本的には6か月ごとに情報の見直しを行い、新たなフェイスシートなどを作成している。
b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。	/	/	/			
c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の生活の中で気付いたり感じたことを申し送り時等を利用して話し合ったり、フェイスシートやアセスメントシートなどに記入して現状を把握するように努めている。	/	/	/			
d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。又、病状の変化についてはカルテに記載して、医師からの指示は、赤字で囲みわかりやすくしている。	/	/	/			
e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	カルテや入居者情報、排泄記録表等を用いて把握しており、毎朝の申し送りでも伝えて行っている。	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カルテにアセスメントシートを入れており、気づきや状態の変化などを記入している。家族さんから得た情報も記入して、朝の申し送りに伝えている。	/	/	○	把握した情報を基にして、日々の関わりの中で観察できたことを「入居者情報」や「摂取及び排泄記録表」にまとめて朝・夕の申し送りで共有し、複数の職員で検討を行っている。
b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行い、朝の申し送り時等を利用して検討している。	/	/	/			
c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	気づきや状態の変化はアセスメントシートやケアプラン等の空スペースに記載するなどして、介護計画書の見直しに活かしている。	/	/	/			

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	介護計画書やアセスメントシートをカルテに入れており、気持ちや思いを空スペースに記載するなどして検討している。	/	/	/	利用者や家族、管理者、計画作成担当者、介護職員などが集まり一緒に話し合うことで介護計画を作成している。家族が出席できない場合は事前に文書で意向を確認している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、介護計画書の見直しをしようとしている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意向を把握しにくい方に関しては、家族さんに相談したり、本人さんの表情や言葉からくみ取れるように努力している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族さんや地域の人が意向を言いやすい雰囲気や心掛けており、得た情報などを介護計画書に落とせるように努めている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	介護計画は個人ファイルの経過記録の中に綴じており、常に確認しやすいようにしている。毎月ケアの実施状況を確認し、6か月を基本としてモニタリングを行っている。利用者の日々の様子については、言葉や行動、エピソードなどを細かく記録している。今後はさらに支援している職員が気がついたことや思ったこと、アイデアを記載していくことを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	3ヶ月から6ヶ月でモニタリングをして申し送り時等を利用して確認している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	カルテや入居者情報に記入している。又、受診状況や思ったことなどはAP覧も利用している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	カルテのAP欄に記入するように努めている。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行っている。	/	/	/	計画の期間ごとや退院時など状態の変化があった時に、利用者ごとの担当者がアセスメントを行って変化に対応している。また、毎月モニタリングを行って目標達成状況を数値で表している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院、退院等の時等、状態の変化時は、適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞いている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	適宜、ケース検討会やサービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、その都度介護計画書の見直しをしている。	/	/	/	サービス担当者会議を適宜実施し、6か月ごとの計画見直しを基本としている。さらに、退院後の場合は3か月の段階においても見直しを行っている。会議に出席できない場合は、議事録を回覧したり、大切なことは申し送ったりするなど、情報が確実に伝わるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃から、意見を言いやすい雰囲気作りや心掛けている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	職員会議や行事ごとのある日の申し送り時等を利用してしている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を確認してもらったり、大切なことは、申し送り時に入居者情報に記載して、全員が確認できるようにしている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	回覧を確認してもらって、サインをもらっている。又、申し送り時に伝えている。	/	/	/	「入居者情報」シートを活用し、利用者に関する情報を朝夕の申し送り時に伝えている。医療的な情報の記録については、赤字の枠で囲むなど、確認しやすいよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り時にすべての職員に情報が伝わるまで繰り返し伝えている。又、回覧や議事録などにサインをもらうようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その人に合わせて、その日をどう過ごしたいかを尋ね、出来る限り利用者の方のペースに合わせてるように努めている。	/	/	/	日々の気分に合わせて飲み物が選べるようにし、衣服も自分の好みのものが選べるようにしている。散歩やカレンダー塗り、パズル、生け花など、利用者個々の一番したいことを楽しみながら取り組んでもらうようにしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	10時の水分補給時には、コーヒーや紅茶等の中から自己決定できるように努めている。更衣する時は居室のタンスの所に行ってその日に着たい服を選んでもらっている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	質問はわかりやすく、相手が言えるような声掛けをするように心掛けている。会話の中でも、思いや希望が伝えやすいような雰囲気づくりに努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	「ちょっとまってよ。」の言葉を禁句として、ひとりひとりの思いを大切に寄り添うように心掛けている。体調が悪い時は無理をしないように心掛けている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりにしている。	○	人生の先輩として人格を尊重して関わりを持つように心掛けている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人さんの言葉や表情から想いがくみ取れるように努めている。スタッフからも何々ですか?と具体的に聞き表情などで判断している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けている。	○	◎	○	職員は人権や尊厳について、研修で学ぶ機会があり理解して共有しており、プライバシーの尊重を常に意識しながら日々のケアに努めている。トイレ誘導などの際には、周囲にわからないようさりげない声かけを徹底している。訪室時には必ずノックや声かけをしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けており、職員同士でも声を掛け合って常に気をつけるようにしている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	声掛けの仕方を工夫するなどして、自尊心を損ねる事の無いように、その人らしさを尊重するような対応を心掛けている。排泄時も外でそっと見守りしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る時は、必ず、ノックや声掛けをしている。又、他の利用者さんが間違っははらないように気を付けて見守り声かけなどを行っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、職員同士も声を掛け合って注意をしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えをもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者さんに助けを求めたり教えをもらった時は、感謝の言葉やお礼を声や態度に出して伝えるように努めている。出来る限り一緒にできる事ははしてもらって、感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	仲の良い利用者が近くに集まり、他の利用者の移動を手伝うことや、場所を離れようとする行動を職員にも伝えてくれる状況がある。仲間と一緒にぞうきん作りやパズルゲームなどを行って楽しい時間を過ごせるようになり、利用者同士良い関係が築けるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	日々の生活の中で、職員が間に入り、状況に応じて見守りを行い、利用者さん同士が助け合い、支えあって生活できるように配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらい場面をつくる等)。	○	仲の良い、気の合う人が穏やかに過ごせるように、また、孤立する利用者さんがいないように、ホールでの座席に気を付けて配置している。行事等の時は、世話役の人にも前もってお願いをして、円滑に物事が進むように努めている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	状況に応じて、職員が中に入り、場所や雰囲気を変えたりしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人さんとよくお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人さんとよくお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの場所ドライブなどで出かける事はありますが、知人や友人に会いに行くのは少ない。知人や友人の方が面会に来られた時は、一緒に過ごせるように配慮している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会に来られた時は、居室やホールでゆっくりと我が家のように過ごせるように配慮している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	その人に合わせて、出来る限り利用者の方のペースに合わせてるように努めている。併設の通所介護が外出の際に、乗車定員に余裕があれば、声を掛けてもらい一緒に外出もしている。外出が難しい時は、庭を散歩したり、花を見たりしている。	○	×	○	近くの保育園の運動会に招かれたり、花見や初詣など季節を感じる場面で外出したりしている。重度の利用者を含め、併設のデイサービスに行ったり、テラスに出て外気浴を行ったりして気分転換を図るようにしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	毎月、認知症サポーターやボランティア、地域の方の協力を得て、認知症カフェに参加させてもらっている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調の良い時は庭に出て散歩をしたり、花を見たりしている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	利用者さんの希望で買い物に出掛けたり、家族の方の協力を得て自宅へ帰ったりできるように支援している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めている。	/	/	/	利用者個々の今できることを把握し、アセスメントシートの中の「できること」に記載して職員間で情報を共有している。利用者には洗濯やぞうきん作り、調理の下ごしらえなどを取り組んでもらっており、職員は極力手伝わす見守りを心がけている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めており、その人に合った声掛けや支援を心掛けている。看護師や医師にも相談している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、その人の持っている力が発揮できるように声掛け見守りを行っている。家事全般が得意な人には、日課としてしてもらっている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握するように努めている。	/	/	/	ホールの花瓶に花を活けることや、お茶をたてること、下膳や配膳などの手伝いをするなど、利用者個々に役割や出番を作るようにしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握して、日頃から、利用者さんが何をしたいかを常に考えながら支援している。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の観光スポットを見に季節ごとのお花を見に行ったり、お祭り、初詣などに行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	入浴時や更衣の時は、なるべく服を選んでもらうようにしている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら、髪をといてもらったりしている。	/	/	/	衣服の乱れや食事の食べこぼしなどは、周囲に気づかれないようにさりげなくカバーしている。重度な利用者を含め、毎日好みの衣服に着替えてその人らしさが保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	出来るだけ利用者さんの希望がかなうように、本人、家族さんと相談して用意して、居心地良く過ごせるようにしている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族さんの情報や普段の何気ない会話の中から把握して、支援できるように努めている。好きな色や柄などもできるだけ聞くようにしている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族さんと本人さんと相談して、季節や行事の合わせて、その人に合う服を着るようにしてもらっている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	一人一人の思いやプライドを大切にしながら、さりげなく声掛け見守りしながら、支援している。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ホームにも月1回美容師さんが来てくれているが、希望のある方は、家族さんに協力してもらって望みの美容室へ行っている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人さんの思いを大切に、その人らしさが保てるように家族さんの協力も得て支援している。	/	/	○	
		g	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	社内研修で学べる機会があり、理解できている。	/	/	/	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	社内研修で学べる機会があり、理解できている。	/	/	/	グループ内の栄養士が献立を作り、ユニット内にある調理場で調理される様子を見ることができ、匂いを楽しむことができる。利用者には調理の下ごしらえや下膳などをできる範囲で手伝ってもらっている。献立や味付けに関する意見や感想を利用者同士の会話の中から拾い、職員が栄養士に伝え、献立や味付けなどに反映させている。利用者の状況に応じてスプーンやフォーク、ストローなどを使い、一口大のカットや食材をすりおろすなどの食べやすさについても工夫されている。職員は利用者と一緒に同じ食卓を囲んで食事しながら、利用者のサポートをしている。重度の利用者を含め、献立の会話をしながら調理ができ上がるのを心待ちにしている。栄養士が利用者の希望を踏まえ献立を作成しており、職員間で定期的に栄養バランス等について話し合っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食事作りは厨房スタッフがやっているが、料理の下ごしらえ等は、一緒に手伝ってもらっている。片付けや洗い物は、出来る利用者さんが時々してくれている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝ってもらった時には、感謝の気持ちを伝え、一緒に喜んでる。又、ホールには、スタッフが献立を手書きし、利用者さんとも食事を楽しんでもらっている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	カルテに記入したり食事確認表を作っており、いつでも確認できるようにしている。食べれないメニューがあれば、その都度変更している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立は、栄養士さんが栄養面や季節の物を考慮して立ててくれている。お正月、節分、雛祭り、敬老の日などは折詰弁当を提供している。利用者さんの好みや苦手なもの、アレルギーにも配慮してくれている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人一人の食事の確認をしながら、彩や添え物に工夫して提供してくれている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食器は、滑りにくい物を使っている人もいる。お箸は本人専用のお箸を使っている人もいる。	/	/	/	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も利用者さんと同じ食卓を囲んでなるべく一緒に食べるようにしている。介助のいる利用者さんのそばで食べたりの配慮をしている。	/	/	/	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	その時の献立を伝えて、食事のでき具合や、臭いを伝えながら会話をしている。皆が過ごすホールと厨房が近いように設計されており、厨房内も見えやすい。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	栄養士が栄養バランスを考えて献立をたててくれている。水分量は、一日の摂取量を個人別に記録している。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	摂取及び排泄記録表に、食事や水分量を記入し、必要量が確保できるように心掛けている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している。水分が摂りにくい利用者さんには、コーヒーやジュースなどに変更して摂取してもらっている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	利用者さんや職員の希望をお願いして、栄養士さんが献立をたててくれている。	/	/	◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	厨房スタッフが、栄養士さん指導の下、気を付けてしてくれている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	社内研修で勉強をする機会があり、食後には、口腔ケアを行うように努めている。				毎食後の口腔ケアを行い、利用者個々の口腔内の状況については把握しており、常に口腔内の清潔を保ち健康状況が継続できるよう努めているほか、月2回の訪問歯科診療を受けられる体制を整えているなど、万全を期している。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	定期的に歯科往診があり診てもらっている。食後の口腔ケア後もスタッフが確認している。			◎		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科医より、指導を受けており、口腔状況提供書に基づいて支援している。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	訪問歯科さんの指導の下、支援している。週に1回ポリドントもしている。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、声掛け見守りをして、確認をしている。また、月2回の訪問歯科の時に口腔ケアをしてくれており、指導もしてもらっている。			◎		
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	異常のある時は、訪問歯科さんに相談して、治療してもらっている。					
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。				他の利用者がトイレに行く際に声をかけるなど、トイレでの排泄を基本として支援している。おむつの使用者や日中布パンツで過ごす利用者もいるが、使用の必要性などについては、職員間で話し合いその時の状態に応じて支援している。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄記録表をチェックして把握している。					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、トイレの声掛けをしている。オムツの使用は、出来るだけ声掛けやトイレ誘導をしてトイレに座ってもらうようにしている。			◎		○
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。便秘の場合は、医師の指導のもと、下剤を内服してもらっている。					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。排泄の間に合わない人は、早めの声掛けを行っている。					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	おむつの使用などの排泄方法については、利用者の状態に合わせて、申し送り等で検討して、家族さんにも了解をもらって使用している。					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人一人の排泄のパターンを把握して使用している。					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食物繊維の多い食材を毎日食べてもらっている。水分も十分に補えるように声掛けをしている。又、ホーム内の散歩を積極的に行ってもらっている。					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	出来るだけ、希望に添えるように努力している。曜日などは決めておらず、基本希望があれば入ってもらっている。			◎	○	通常は週2回、夏場は週3回の入浴を基本としており、毎日入浴する利用者もいる。夕方の入浴など、利用者からの要望があれば臨機応変に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	転倒などのリスクがあるのでスタッフが側で見ているが、利用者さんの体調を確認しながら、ゆっくり入浴できるように支援している。					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる事は、見守り声掛けをしながら、自分でしてもらい、出来ないことの支援をしている。					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	その時の状態を確認しながら、声掛けをして、無理強い無いうように努めている。時間帯を考えたりスタッフを交代して、気持ち良く入ってもらい工夫している。					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックや体調の確認をしている。入浴後は、水分を取ってもらい、疲れていれば居室で休んでもらっている。					

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	申し送り等やカルテを見てその人の睡眠パターンを確認している。				眠剤を飲む利用者は少なく、昼間は起きて15時には散歩をするなど様々な活動を行うことにより安眠できる生活リズムができています。夜間起きた利用者には、事務所でお茶を飲んでもらい会話をすることで安眠できるようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	その人の睡眠パターンを確認して、その人に応じて時間帯を考えて居室で休んでもらえるように心掛けている。また、日中の過ごし方にも注意している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	出来るだけ、睡眠導入剤や安定剤は内服しないで過ごしてもらうようにしている。日中はなるべく活動してもらうように工夫している。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の状態に合わせて、休息や昼寝をしてもらっている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人さんの希望に合わせて、電話や手紙を書いてもらっている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話を掛ける時は、家族さんにも了解を得て協力してもらっている。手紙を書きたいときは、一緒に書くようにしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族さんに了解を得て、協力してもらっている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙が届いた時は、本人さんと相談して、電話で伝えたり、手紙を書いたりしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族さんにも、協力をお願いしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	社内研修や勉強会などで理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持っていない人は、事務所で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物をしている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	日頃から、理解と協力をお願いしている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	利用者さん自身、管理できない人が多いので、外出した時等に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、買い物をしている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に話し合っている。自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持っていない人は、事務所で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物ができる事を伝えている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に話し合っている。利用者さん自身、管理できない人は、外出した時に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、了解を得ている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々々の様々なニーズに対して、代表と相談しながら柔軟に取り組んでいる。		◎	○	帰宅願望の強い利用者の中には、外出や外泊などを活用し、今までなじみのある散髪さんに行くなど家族の協力も得ながら様々なニーズに対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物は、鉄骨2階建てで優しい雰囲気にしており、敷地内には広い駐車場が完備されており、畑や緑を多くした中庭があり、環境面に配慮している。	◎	◎	○	玄関外でメダカを育て、玄関にはベンチを設けている。訪問者が来た際にはリビングから見える状態になっており、会話や挨拶が気軽にできる環境である。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	ホールは、季節の花や行事ごとに応じた物を飾るようにしている。テーブルやソファは、状態に応じて配置換えもしている。隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	○	◎	○	ユニット間の行き来がしやすい構造になっており、広々として快適な空間となっている。1日2回の掃除では、利用者が掃除機での掃除を役割として行うなど、利用者と職員が共に我が家をきれいにしようという意識が高い。リビングやホールには花が活けてあり、季節感が感じられる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	眩しい光には、レースのカーテンやブラインドを使って調整している。不快な音や大きな音は、出ないように気を付けている。定期的に掃除をし、臭いにも気を付けている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、観葉植物を置いている。窓からは、中庭が見え、木を植えているので、緑を楽しんでもらっている。又、行事ごとの飾りもしている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレや浴室は、ホールから直接見えないう位置にあり、明り取りの窓は上方にあり、すりガラスにしている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家で使っていたテーブルや椅子、化粧台など持って来て使ってもらっている。本人さんと家族さんと相談して、居心地よく生活できるようにしている。	◎		○	ベッドやエアコン、テレビ台などが備わっており、馴染みの写真や飾り物を置くなど自分好みの空間作りがされ、居心地よく過ごせるようになっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	建物内はバリアフリーで、各所に手擦りを設置している。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。			○	バリアフリー化され移動しやすい環境であり、居室のドアには果物の写真が貼られて部屋をわかりやすくしている。鈴のついた飾り物を取り付けて目印にするなどの工夫もみられ、利用者が安全に自立した生活が送れるようにしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	常に環境整備を行い、動線には物を置かないように心掛けている。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌、本は、いつでも自由に見れるように、ホールの棚に置いている。掃除道具や趣味の物は、所定の所に置いているが、利用者さんが希望すれば、いつでも用意できるようにしており、日々の会話や態度で、感じ取れるように努めている。裁縫道具とポットは危険な場合があるので、事務所に置いている。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	基本ユニットの入り口には、鍵をかけていない。やむを得ず職員の目が届かない状況の時や利用者さんが落ち着かない時だけ施錠している。居室は、鍵はかけていない。	◎	◎	○	職員は玄関などの出入口に施錠することの弊害について理解しており、玄関などは施錠されておらず、自由に出入りすることができる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時等に家族さんと話し合いをしている。入居時の落ち着かない時ややむを得ない時以外は、施錠があたり前にならないように努めている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	入口はやむを得ない時以外は施錠はしていない。、ユニット間は、施錠をしないで自由に行き来できるように配慮している。外部との出入り口には人が通るとチャイムが鳴るようになっており、鳴ったらスタッフがその都度確認している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	カルテに、フェイスシートを入れており、病気や留意事項が一目でわかるようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の様子をカルテに記載している。毎日、バイタルチェックをし温度表にグラフ化している。異常があれば看護師や医師に相談している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	訪問看護が併設しており、かかりつけの医師による往診も月2回あり、訪問看護師に同行してもらっている。異状時や気になることがあれば、相談し、協力してくれている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	利用者さんの受診状況等は、カルテに記載している。状態に応じて、協力病院で受診が行えるようになっている。また、本人さんや家族さんの希望を大切に、馴染みのかかりつけ医での受診も行っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入居時に本人さん、家族さんと話し合いを持ち、柔軟に対応をしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診や通院が必要な時は、家族さんと話し合いをしている。また、受診後は、その都度、家族さんに結果を報告し、カルテにも記載している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時は、介護要約で情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	主治医、病棟部長、ケースワーカーとの連携を持ち、退院時の受け入れ状態を整えるように努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	普段よりケースワーカーとのかかわりを持ち、医療機関の勉強会に参加するなど関係づくりに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護が併設しており、看護師が利用者さんと関わる時間も、相談もしている。情報や気付きは常に看護師に報告しており、健康管理や医療面でも協力してもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	異常時や緊急時の時は、いつでも相談している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	カルテに処方箋を入れている。変化のある時は、申し送り時に伝えている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬袋には、名前、日にち、いつ内服するかを記入しており、仕分けする時、内服する時、内服した後も確認するようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。朝の申し送り時に確認し、異状時には訪問看護師に相談している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	医師や看護師には、月2回の往診時に伝えている。家族さんにも面会時や、電話で伝えている。				

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態の変化に合わせて、その都度、本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、確認もしている。現時点での緊急時の対応についての意思の確認書をカルテに入れている。	/	/	/	看取りに関する指針、延命処置に関する意思確認書を準備し、利用者や家族に同意を得ている。利用者や家族の考えを聞き取り、常に確認を取りながら医師など関係者を交え話し合い、方針を共有している。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	○	◎	/		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	併設の訪問看護師への相談、協力を得て、職員ともよく話し合っている。	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	代表、訪問看護師と共に取り組んでいる。	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族さんの思いを大切に、家族さんの気持ちを理解して、誠実に対応している。	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。	/	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。ノロウイルス等での汚物処理の仕方については、マニュアルカードを作っており、汚物処理セットも用意している。	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	保健所や行政の勉強会などがあれば、参加している。感染症発生状況も情報もインターネットなどを通じて早く取り入れるようにしている。	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症発生状況や情報はインターネットなどを通じて早く取り入れ、早めに対応を取るよう努めている。	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	洗面所には、手洗いの手順を置いており、薬用ハンドウオッシュとヒビスコール、ペーパータオルを設置している。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時にはゆつくりと過ごしてもらい、生活状況の説明をしている。状態の変化時には、随時報告している。行事などもできるだけ参加してもらるように努めている。	/	/	/	家族に手紙や年賀状を出してつながりを持つようしており、家族会や運営推進会議への定期的な参加や、月間の行事予定を見て来てくれる家族が多い。また、家族から手紙や暑中見舞いなどが利用者あてに届いた時には電話をして話すなどの援助をしている。家族会や運営推進会議の際に、事業所の運営上の出来事や経過などについて報告をしているが、一部の家族の理解が得られていないため、全ての家族の理解が得られるよう報告方法などの工夫が望まれる。家族の面会時には、職員が必ず声かけをして利用者の日頃の様子を伝え、家族は気軽に相談している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族さんがいつでも気軽に訪問してもらえるような雰囲気作りを心掛けている。小まめに生活状況や体調の変化などを伝えている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事などには、出来るだけ利用者さんと一緒に過ごしてもらえるように参加の呼びかけをしたり、行事の内容を掲示板や社内報で報告するようにしている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	利用者さんのホームでの生活を手紙でお知らせしている。その時に写真も添えている。又、社内報も送付している。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族さんや利用者さんの思いを本音が聞けるように努め、話し合ったり相談して対応をしている。運営推進会議や家族会などを開催して、家族さんからの意見を聞いて改善して行っている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時に生活状況の報告や体調の変化を伝え、職員も一緒に会話の中に入ってコミュニケーションをとるようにしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議や家族会などで報告をしたり、日頃の生活をスライドショーで見てもらっている。新規採用があれば紹介している。	/	x	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議や家族会などでは、家族同士でお話をする機会を持ってもらっている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時に説明をするようにしている。その後も必要時において話し合いをしている。職員は社内研修にて、虐待および身体拘束についての勉強会をしている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族さんがいつでも気軽に声を掛けてもらえるような雰囲気作りを心掛けている。面会時には、生活状況や体調の変化などを伝えている。又、必要に応じて電話でも伝えている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約等の変更のある時は、必ず、理解と納得が得られるように具体的に説明をして承してもらっている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の時も利用者さん、家族さんに決定過程を明確にして納得が得られるように具体的に説明をして承を得ている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時及び料金改定時には、文書で示し、家族会の開催時等に説明し同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議に参加してもらったり、イベントに招待したり、招待して頂いたりしながら、理解をはかっている。	/	◎	/	近くで行われるお花見会や運動会に出かけることや、お祭りのだんじりが立ち寄り祭りの雰囲気を楽しむことで地域交流ができています。また、近所の保育園児、ボランティア団体との交流もある。認知症カフェを建物内で行い、地域の方々が参加する活動を長年継続するなど、地域とのネットワークづくりに努めているが、地域住民の理解が不十分なため、今後は地域からの理解が十分得られるようなネットワークづくりの構築に取り組んで欲しい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	市の相談員、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントにも参加している。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっている。又、月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	認知症カフェに参加して下さっているボランティアの方の支援が増えている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	認知症カフェもあり、気軽に立ち寄ってくれていると思う。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	ホームの周りに民家はないが、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントに参加させてもらっている。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近所の保育園や事業所との交流があり、観覧会や運動会イベントに招待してくれたり、訪問してくれている。又、認知症カフェに来てくれるボランティアの方が、コンサートを開いたり、手品をしてくれたりしている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域のイベントに参加したり、ホーム内でも他のユニットや、デイサービスに遊びに行ったりしている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近所の保育園や事業所との交流がある。月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。運営推進会議や避難訓練時に警察や消防の方に来てもらっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	参加者が、参加しやすいように年間行事を立てて案内しており、参加もしてくれている。	○	/	◎	運営推進会議は利用者や家族、保育園、警察署、民生委員、市職員など、多くの参加者で構成されている。グループでの意見交換の時間を取り、参加者からの意見を得やすい仕組みができており、得られた意見は、今後の運営のため話し合いの場を設け、サービス向上に活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者さんのサービスの実際や評価の取り組みなどは、その都度、報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で出された意見や提案などは、参加者に報告書を提出している。状況や結果は報告できていないこともあるが、事業所内全体で、改善するようになっている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマによって警察官、消防員など様々な方に参加してもらえるように努めている。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	参加者には、議事録を郵送している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は、利用者さん一人一人が笑顔で穏やかに生活を送ってもらえるようにとの思いを持って、日々取り組んでいる。朝の申し送りでも共有できるようにスタッフ全員で理念を復唱している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	各ユニットも事務所には、理念や目標を掲げている。パンフレットにも記載している。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	社内勉強会や実技研修は、毎月開催している。勤務年数に応じての研修もしている。	/	/	/	社内勉強会や実技研修会を毎月実施し、新人研修、勤務経験に応じた研修などが実施されている。職員は年1回ストレスチェックを受けられるほか、必要に応じて医療機関で相談できる体制を整え、ストレス軽減に努めており、職員が働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月、社内研修や勉強会を開催しており、勤務年数に応じての研修もしている。又、資格取得に対しての支援もしている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は、管理者や個々の職員の努力や勤務状況を把握し、その都度話し合う機会をもっている。資格取得に対しての支援もしており、やりがいや向上心を持って働けるような環境づくりに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	西条市の連絡会に参加したり、相互研修に参加して、サービスの質の向上に努めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年に1度、ストレスチェックをして、その結果を通して対応している。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。	/	/	/	社内勉強会において虐待防止に関する研修を年1回行い、さらに身体拘束に関する検討委員会があり、毎月検討する時間を設けており、職員は不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順などについて理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎朝の申し送り時や部署会などで話す機会を持っている。また、いつでも話やすい雰囲気づくりを心掛けている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。利用者さんの内出血や表皮剥離などの異状を発見した時は、事故報告書を書いてもらい、検討している。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	出勤時には、職員の顔色や表情などの確認をしている。又、お互いが注意したり相談できる雰囲気作りにも努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	職員は、社内研修や勉強会で理解し、日頃から身体拘束に対する意識を高めている。家族さんともその都度、よく話し合うように努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中でも確認するように努めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で、その状況に応じての支援ができるように努めている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	その都度、必要に応じて、連携を取って対応をしている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応についてのマニュアルがあり、勉強会もしている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	社内研修や勉強会などで理解しており、実技の勉強会もしている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故発生時には、速やかに事故報告書を書いてもらっている。毎月ヒヤリハットを書いてもらい、毎月の職員会議で検討している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故発生時には、事故報告書に基づき、朝の申し送り時に確認をしている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情の受付窓口を設けており、苦情があった場合は、代表や管理者に報告している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情報告書に記入し、必要時には、市に報告相談をしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情のある時は、速やかに対応をして、前向きな話し合いと改善ができるように努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	利用者さんにも運営推進会議に参加してもらって、意見や要望を言ってもらっている。又、日頃から、何でも言いやすい雰囲気作りに努めている。	/	/	○	運営推進会議や家族会の場で意見を聞く機会があるほか、普段の利用者同士の会話の中から本音の意見を得ることが多く、職員は常に話を聞き取ることに注意を払っている。家族からの意見は、運営推進会議でもらっている。家族会は年1回実施し、家族だけで話し合える時間も設け、教えてもらっている。管理者は、職員からの意見は朝の申し送りなどで聞き、日々の業務の中でも話し合う機会を設けて聞いており、常にサービス向上につながるよう検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	事業所の相談窓口を設けており、運営推進会議や個別にも伝えやすいように努めている。	○	/	◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族会や、運営推進会議などで伝えている。又、普段から気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	定期的に各ユニットを回って、利用者さんや職員に声を掛けてくれている。又、その都度意見や要望に対応してくれている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	朝の申し送りや、職員会議を利用して検討をしている。又、必要時には、代表にも参加してもらっている。	/	/	○	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	必要に応じて、朝の申し送り時を利用して、出来るだけ全員で確認をするようにしている。	/	/	/	事業所内での自己評価は毎年行い、定期的な見直しの機会を持って業務改善につなげている。運営推進会議でサービス評価の結果を伝えているが、その後の取組みに関する成果について十分な聞き取りができていない。今後は、取組みに関する定期的な意見交換が実施されることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議や家族会などで報告して、意見や意向を伺っている。	○	◎	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	毎月の職員会議で確認をするようにしている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成しており、社内研修や勉強会で学ぶ機会がある。年に1回市の危機管理課にお願いして勉強会を開催している。	/	/	/	あらゆる場面を想定し、内容の違う訓練を毎月行っている。法人内で災害に対する相互協力体制を作り上げ、安全確保のため他のグループホームへの移動や、他のグループホームから受け入れる物資を融通するなど、シミュレーションを実施し、緊急災害時の協力支援体制を整えている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	毎月、色々な場面を想定して避難訓練を実施している。年2回消防署員の立会での訓練をし指導してもらっている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	年に2回安全パトロールをして、消火設備や避難経路、非常用の食料や備品の確認をしている。外部に依頼して消防設備の点検も年2回行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署とは、定期的な連携を取って、避難訓練に立ち会ってもらったり、緊急時の対応について実技指導をしてもらっている。	△	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	災害時を想定した地域のネットワークには、代表が積極的に参加してくれている。消防や警察の方とは、運営推進会議にも参加してもらっており、その都度、相談や指導をもらっている。同一事業所内では、協力して災害対策に取り組んでいる。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	市と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。毎月、認知症カフェを開催したり、運営推進会議でもミニ介護講座を取り入れている。高校の授業で講演にも行っている。	/	/	/	関係機関と協力しながら地域の介護や福祉に関する総合相談窓口として様々な相談を受けている。認知症カフェを行い、介護に関連する研修生の受け入れや認知症サポーターの養成などにも取り組んでおり、活動はひよこ通信で報告している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	毎月の認知症カフェ開催時に相談支援を行っている。又、いつでも相談支援ができるように努めている。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	毎月、認知症カフェを開催しており、ボランティアの方が、コンサートを開催してくれたり、手品やよさこい踊りなどを披露してくれている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	実践者研修やリーダー研修などで実習生の受け入れをしている。令和1年7月よりフィリピンからの実習生を受け入れている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域のボランティアや市の相談員、学校、保育園、事業所、医療機関と交流があり、イベントにも参加している。年1回、夏祭り大会を開催し、地域の方にも参加してもらっている。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年9月18日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 32名	(依頼数) 45名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870600297
事業所名 (ユニット名)	グループホーム フルーツの家2階 5ユニット
記入者(管理者) 氏名	子守 由美
自己評価作成日	令和元年8月5日

<p>【事業所理念】</p> <p>和やかで笑顔あふれる生活づくり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>カルテに介護計画のサービスの内容の実施状況を記録したり、変化や気付きなどを赤のペンで記入してみんなで情報を共有していくことに取り組んできたが、変化や気付きなどを赤ペンで記入することは出来ているが、十分に出来ていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所開設から19年が経っているが、建物内は明るく清潔感があふれ、観葉植物や花もあり、居心地の良い空間が作られている。ユニット間の交流があり、また関連するデイサービスとの交流も行われ、利用者にとっての「我が家」の中で様々な他者との心の交流が見られている。建物内に認知症カフェを開催する場所があり、外部の人の出入りもしやすい雰囲気が備わっている。地域の介護や福祉の拠点として機能し、相談や研修機能も充実している。日々の利用者の状況に応じた分析と検討、介護に関する記録の整備に取り組み、利用者の変化や職員の気づきについて記録ができるよう取り組んでいる。</p>
---------------------------------------	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思い暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人さんや家族の方が意向を言いやすいような雰囲気心がけており、得た情報はフェイスシートやアセスメントシートを利用し、職員間で情報の共有を行っている。	○	/	○	昔の生活、今の生活、今できることなどの情報を把握し、シートにまとめている。また、担当者が似顔絵を描き、利用者の人となりユニークに視覚化することもできている。新たな情報を入手すると赤字で加えることで内容は豊かなものになっている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	家族の方に相談したり、本人さんの表情や言葉から思いをくみ取れるように努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族さんや友人の方が面会に来られた時に、情報が得られるように努力をしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して、職員間で共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	カルテの中にフェイスシートやアセスメントシート、介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して職員間で共有している。また、同一法人内の他事業所を利用していた方に関しては、情報を提供してもらっている。	/	/	○	利用者や家族から得られた生い立ちや性格、趣味や職業、生活リズムなどの情報をフェイスシートやアセスメントシートにまとめている。基本的には6か月ごとに情報の見直しを行い、新たなフェイスシートなどを作成している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の生活の中で気付いたり感じたことを申し送り時等を利用して話し合ったり、フェイスシートやアセスメントシートなどに記入して現状を把握するように努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。又、病状の変化についてはカルテに記載して、医師からの指示は、赤枠で囲みわかりやすくしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	カルテや入居者情報、排泄記録表等を用いて把握しており、毎朝の申し送りでも伝えて行っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カルテにアセスメントシートを入れており、気づきや状態の変化などを記入している。家族さんから得た情報も記入して、朝の申し送りに伝えている。	/	/	○	把握した情報を基にして、日々の関わりの中で観察できたことを「入居者情報」や「摂取及び排泄記録表」にまとめて朝・夕の申し送りで共有し、複数の職員で検討を行っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行い、朝の申し送り時等を利用して検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	気づきや状態の変化はアセスメントシートやケアプラン等の空スペースに記載するなどして、介護計画書の見直しに活かしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	介護計画書やアセスメントシートをカルテに入れており、気持ちや思いを空スペースに記載するなどして検討している。	/	/	/	利用者や家族、管理者、計画作成担当者、介護職員などが集まり一緒に話し合うことで介護計画を作成している。家族が出席できない場合は事前に文書で意向を確認している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、介護計画書の見直しをしようとしている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意向を把握しにくい方に関しては、家族さんに相談したり、本人さんの表情や言葉からくみ取れるように努力している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族さんや地域の人が意向を言いやすい雰囲気や心掛けており、得た情報などを介護計画書に落とせるように努めている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	介護計画は個人ファイルの経過記録の中に綴じており、常に確認しやすいようにしている。毎月ケアの実施状況を確認し、6か月を基本としてモニタリングを行っている。利用者の日々の様子については、言葉や行動、エピソードなどを細かく記録している。今後はさらに支援している職員が気がついたことや思ったこと、アイデアを記載していくことを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	3ヶ月から6ヶ月でモニタリングをして申し送り時等を利用して確認している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	カルテや入居者情報に記入している。又、受診状況や思ったことなどはAP覧も利用している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	カルテのAP欄に記入するように努めている。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行っている。	/	/	/	計画の期間ごとや退院時など状態の変化があった時に、利用者ごとの担当者がアセスメントを行って変化に対応している。また、毎月モニタリングを行って目標達成状況を数値で表している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院、退院等の時等、状態の変化時は、適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞いている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	適宜、ケース検討会やサービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、その都度介護計画書の見直しをしている。	/	/	/	サービス担当者会議を適宜実施し、6か月ごとの計画見直しを基本としている。さらに、退院後の場合は3か月の段階においても見直しを行っている。会議に出席できない場合は、議事録を回覧したり、大切なことは申し送ったりするなど、情報が確実に伝わるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃から、意見を言いやすい雰囲気作りや心掛けている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	職員会議や行事ごとのある日の申し送り時等を利用してしている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を確認してもらったり、大切なことは、申し送り時に入居者情報に記載して、全員が確認できるようにしている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	回覧を確認してもらって、サインをもらっている。又、申し送り時に伝えている。	/	/	/	「入居者情報」シートを活用し、利用者に関する情報を朝夕の申し送り時に伝えている。医療的な情報の記録については、赤字の枠で囲むなど、確認しやすいよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り時にすべての職員に情報が伝わるまで繰り返し伝えている。又、回覧や議事録などにサインをもらうようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その人に合わせて、その日をどう過ごしたいかを尋ね、出来る限り利用者の方のペースに合わせてるように努めている。				日々の気分に合わせて飲み物が選べるようにし、衣服も自分の好みのものが選べるようにしている。散歩やカレンダー塗り、パズル、生け花など、利用者個々の一番したいことを楽しみながら取り組んでもらうようにしている。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	10時の水分補給時には、コーヒーや紅茶等の中から自己決定できるように努めている。更衣する時は居室のタンスの所に行ってその日に着たい服を選んでもらっている。			○		
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	質問はわかりやすく、相手が言えるような声掛けをするように心掛けている。会話の中でも、思いや希望が伝えやすいような雰囲気づくりに努めている。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	「ちょっとまってよ。」の言葉を禁句として、ひとりひとりの思いを大切に寄り添うように心掛けている。体調が悪い時は無理をしないように心掛けている。					
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりにしている。	○	人生の先輩として人格を尊重して関わりを持つように心掛けている。					○
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人さんの言葉や表情から想いがくみ取れるように努めている。スタッフからも何々ですか?と具体的に聞き表情などで判断している。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けている。		○	◎	○	職員は人権や尊厳について、研修で学ぶ機会があり理解して共有しており、プライバシーの尊重を常に意識しながら日々のケアに努めている。トイレ誘導などの際には、周囲にわからないようさりげない声かけを徹底している。訪室時には必ずノックや声かけをしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けており、職員同士でも声を掛け合って常に気をつけるようにしている。				○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	声掛けの仕方を工夫するなどして、自尊心を損ねる事の無いように、その人らしさを尊重するような対応を心掛けている。排泄時も外でそっと見守りしている。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る時は、必ず、ノックや声掛けをしている。又、他の利用者さんが間違っははらないように気を付けて見守り声かけなどを行っている。				○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、職員同士も声を掛け合って注意をしている。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者さんに助けてもらったり教えてもらった時は、感謝の言葉やお礼を声や態度に出して伝えるように努めている。出来る限り一緒にできる事ははしてもらって、感謝の気持ちを伝えている。				仲の良い利用者が近くに集まり、他の利用者の移動を手伝うことや、場所を離れようとする行動を職員にも伝えてくれる状況がある。仲間と一緒にぞうきん作りやパズルゲームなどを行って楽しい時間を過ごせるようにしており、利用者同士良い関係が築けるよう支援している。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	日々の生活の中で、職員が間に入り、状況に応じて見守りを行い、利用者さん同士が助け合い、支えあって生活できるように配慮している。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらった場面をつくる等)。	○	仲の良い、気の合う人が穏やかに過ごせるように、また、孤立する利用者さんがいないように、ホールでの座席に気を付けて配置している。行事等の時は、世話役の人にも前もってお願いをして、円滑に物事が進むように努めている。					○
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	状況に応じて、職員が中に入り、場所や雰囲気を変えたりしている。					

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人さんとよくお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人さんとよくお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの場所ドライブなどで出かける事はありますが、知人や友人に会いに行くのは少ない。知人や友人の方が面会に来られた時は、一緒に過ごせるように配慮している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会に来られた時は、居室やホールでゆっくりと我が家のように過ごせるように配慮している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	その人に合わせて、出来る限り利用者の方のペースに合わせてるように努めている。併設の通所介護が外出の際に、乗車定員に余裕があれば、声を掛けてもらい一緒に外出もしている。外出が難しい時は、庭を散歩したり、花を見たりしている。	○	×	○	近くの保育園の運動会に招かれたり、花見や初詣など季節を感じる場面で外出したりしている。重度の利用者を含め、併設のデイサービスに行ったり、テラスに出て外気浴を行ったりして気分転換を図るようにしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	毎月、認知症サポーターやボランティア、地域の方の協力を得て、認知症カフェに参加させてもらっている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調の良い時は庭に出て散歩をしたり、花を見たりしている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	利用者さんの希望で買い物に出掛けたり、家族の方の協力を得て自宅へ帰ったりできるように支援している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めている。	/	/	/	利用者個々の今できることを把握し、アセスメントシートの中の「できること」に記載して職員間で情報を共有している。利用者には洗濯やぞうきん作り、調理の下ごしらえなどを取り組んでもらっており、職員は極力手伝わす見守りを心がけている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めており、その人に合った声掛けや支援を心掛けている。看護師や医師にも相談している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、その人の持っている力が発揮できるように声掛け見守りを行っている。家事全般が得意な人には、日課としてしてもらおうようにしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握するように努めている。	/	/	/	ホールの花瓶に花を活けることや、お茶をたてること、下膳や配膳などの手伝いをするなど、利用者個々に役割や出番を作るようにしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握して、日頃から、利用者さんが何をしたいかを常に考えながら支援している。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の観光スポットを見に季節ごとのお花を見に行ったり、お祭り、初詣などに行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	入浴時や更衣の時は、なるべく服を選んでもらうようにしている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら、髪をといってもらったりしている。	/	/	/	衣服の乱れや食事の食べこぼしなどは、周囲に気づかれないようにさりげなくカバーしている。重度な利用者を含め、毎日好みの衣服に着替えてその人らしさが保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	出来るだけ利用者さんの希望がかなうように、本人、家族さんと相談して用意して、居心地良く過ごせるようにしている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族さんの情報や普段の何気ない会話の中から把握して、支援できるように努めている。好きな色や柄などもできるだけ聞くようにしている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族さんと本人さんと相談して、季節や行事の合わせて、その人に合う服を着るようにしてもらっている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	一人一人の思いやプライドを大切にしながら、さりげなく声掛け見守りしながら、支援している。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ホームにも月1回美容師さんが来てくれているが、希望のある方は、家族さんに協力してもらって望みの美容室へ行っている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人さんの思いを大切に、その人らしさが保てるように家族さんの協力も得て支援している。	/	/	○	
		g	職員の理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ホームにも月1回美容師さんが来てくれているが、希望のある方は、家族さんに協力してもらって望みの美容室へ行っている。	/	/	/	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	社内研修で学べる機会があり、理解できている。	/	/	/	グループ内の栄養士が献立を作り、ユニット内にある調理場で調理される様子を見ることができ、匂いを楽しむことができる。利用者には調理の下ごしらえや下膳などをできる範囲で手伝ってもらっている。献立や味付けに関する意見や感想を利用者同士の会話の中から拾い、職員が栄養士に伝え、献立や味付けなどに反映させている。利用者の状況に応じてスプーンやフォーク、ストローなどを使い、一口大のカットや食材をすりおろすなどの食べやすさについても工夫されている。職員は利用者と一緒に同じ食卓を囲んで食事しながら、利用者のサポートをしている。重度の利用者を含め、献立の会話をしながら調理ができ上がるのを心待ちにしている。栄養士が利用者の希望を踏まえ献立を作成しており、職員間で定期的に栄養バランス等について話し合っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食事作りは厨房スタッフがやっているが、料理の下ごしらえ等は、一緒に手伝ってもらっている。片付けや洗ひ物は、出来る利用者さんが時々してくれている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝ってもらった時には、感謝の気持ちを伝え、一緒に喜んでる。又、ホールには、スタッフが献立を手書きし、利用者さんとも食事を楽しんでもらっている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	カルテに記入したり食事確認表を作っており、いつでも確認できるようにしている。食べれないメニューがあれば、その都度変更している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立は、栄養士さんが栄養面や季節の物を考慮して立ててくれている。お正月、節分、雛祭り、敬老の日などは折詰弁当を提供している。利用者さんの好みや苦手なもの、アレルギーにも配慮してくれている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	○	一人一人の食事の確認をしながら、彩りや添え物に工夫して提供してくれている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食器は、滑りにくい物を使っている人もいる。お箸は本人専用のお箸を使っている人もいる。	/	/	/	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も利用者さんと同じ食卓を囲んでなるべく一緒に食べるようにしている。介助のいる利用者さんのそばで食べたりの配慮をしている。	/	/	/	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	その時の献立を伝えて、食事のでき具合や、臭いを伝えながら会話をしている。皆が過ごすホールと厨房が近いように設計されており、厨房内も見えやすい。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	栄養士が栄養バランスを考えて献立をたててくれている。水分量は、一日の摂取量を個人別に記録している。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	摂取及び排泄記録表に、食事や水分量を記入し、必要量が確保できるように心掛けている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している。水分が摂りにくい利用者さんには、コーヒーやジュースなどに変更して摂取してもらっている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	利用者さんや職員の希望をお願いして、栄養士さんが献立をたててくれている。	/	/	◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	厨房スタッフが、栄養士さん指導の下、気を付けてしてくれている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	社内研修で勉強をする機会があり、食後には、口腔ケアを行うように努めている、				毎食後の口腔ケアを行い、利用者個々の口腔内の状況については把握しており、常に口腔内の清潔を保ち健康状況が継続できるよう努めているほか、月2回の訪問歯科診療を受けられる体制を整えているなど、万全を期している。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	定期的に歯科往診があり診てもらっている。食後の口腔ケア後もスタッフが確認している。			◎		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科医より、指導を受けており、口腔状況提供書に基づいて支援している。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	訪問歯科さんの指導の下、支援している。週に1回ポリドントもしている。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、声掛け見守りをして、確認をしている。又、月2回の訪問歯科の時に口腔ケアをしてもらい、指導してもらっている。			◎		
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	異常のある時は、訪問歯科さんに相談して、治療してもらっている。					
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。				他の利用者がトイレに行く際に声をかけるなど、トイレでの排泄を基本として支援している。おむつの使用者や日中布パンツで過ごす利用者もいるが、使用の必要性などについては、職員間で話し合いその時の状態に応じて支援している。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄記録表をチェックして把握している。					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、トイレの声掛けをしている。オムツの使用は、出来るだけ声掛けやトイレ誘導をしてトイレに座ってもらうようにしている。			◎		○
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。便秘の場合は、医師の指導のもと、下剤を内服してもらっている。					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。排泄の間に合わない人は、早めの声掛けを行っている。					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	おむつの使用などの排泄方法については、利用者の状態に合わせて、申し送り等で検討して、家族さんにも了解をもらって使用している。					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人一人の排泄のパターンを把握して使用している。					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食物繊維の多い食材を毎日食べてもらっている。水分も十分に補えるように声掛けをしている。又、ホーム内の散歩を積極的に行ってもらっている。					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	出来るだけ、希望に添えるように努力している。曜日などは決めておらず、基本希望があれば入ってもらっている。			◎	○	通常は週2回、夏場は週3回の入浴を基本としており、毎日入浴する利用者もいる。夕方の入浴など、利用者からの要望があれば臨機応変に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	転倒などのリスクがあるのでスタッフが側で見ているが、利用者さんの体調を確認しながら、ゆっくり入浴できるように支援している。					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる事は、見守り声掛けをしながら、自分でしてもらい、出来ないことの支援をしている。					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	その時の状態を確認しながら、声掛けをして、無理強い無いうように努めている。時間帯を考えたスタッフを交代して、気持ちよく入ってもらい工夫している。					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックや体調の確認をしている。入浴後は、水分を取ってもらい、疲れていれば居室で休んでもらっている。					

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	申し送り等やカルテを見てその人の睡眠パターンを確認している。	/	/	/	眠剤を飲む利用者は少なく、昼間は起きて15時には散歩をするなど様々な活動を行うことにより安眠できる生活リズムができています。夜間起きた利用者には、事務所でお茶を飲んでもらい会話をすることで安眠できるようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	その人の睡眠パターンを確認して、その人に応じて時間帯を考えて居室で休んでもらえるように心掛けている。また、日中の過ごし方にも注意している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	出来るだけ、睡眠導入剤や安定剤は内服しないで過ごしてもらうようにしている。日中はなるべく活動してもらうように工夫している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の状態に合わせて、休息や昼寝をしてもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人さんの希望に合わせて、電話や手紙を書いてもらっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話を掛ける時は、家族さんにも了解を得て協力してもらっている。手紙を書きたいときは、一緒に書くようにしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族さんに了解を得て、協力してもらっている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙が届いた時は、本人さんと相談して、電話で伝えたり、手紙を書いたりしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族さんにも、協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	社内研修や勉強会などで理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持っていない人は、事務で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物をしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	日頃から、理解と協力をお願いしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	利用者さん自身、管理できない人が多いので、外出した時等に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、買い物をしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に話し合っている。自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持っていない人は、事務で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物ができる事を伝えている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に話し合っている。利用者さん自身、管理できない人の場合は、外出した時に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、了解を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々々の様々なニーズに対して、代表と相談しながら柔軟に取り組んでいる。	/	◎	/	帰宅願望の強い利用者の場合には、外出や外泊などを活用し、今までなじみのある散髪さんに行くなど家族の協力も得ながら様々なニーズに対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物は、鉄骨2階建てで優しい雰囲気にしており、敷地内には広い駐車場が完備されており、畑や緑を多くした中庭があり、環境面に配慮している。	◎	◎	○	玄関外でメダカを育て、玄関にはベンチを設けている。訪問者が来た際にはリビングから見える状態になっており、会話や挨拶が気軽にできる環境である。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	ホールは、季節の花や行事ごとに飾るようになっている。テーブルやソファは、状態に応じて配置換えもしている。他のユニットへも自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	○	◎	○	ユニット間の行き来がしやすい構造になっており、広々として快適な空間となっている。1日2回の掃除では、利用者が掃除機での掃除を役割として行うなど、利用者職員が共に我が家をきれいにしようという意識が高い。リビングやホールには花が活けてあり、季節感が感じられる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	眩しい光には、レースのカーテンやブラインドを使って調整している。不快な音や大きな音は、出ないように気を付けている。定期的に掃除をし、臭いにも気を付けている。			◎		
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、観葉植物を置いている。窓からは、中庭が見え、木を植えているので、緑を楽しんでもらっている。又、行事ごとの飾りもしている。	○				○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	他のユニットへも自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	○				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレや浴室は、ホールから直接見えないう位置にあり、明り取りの窓は上方にあり、すりガラスにしている。	○				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家で使っていたテーブルや椅子、化粧台など持って来て使ってもらっている。本人さんと家族さんと相談して、居心地よく生活できるようにしている。	◎		○	ベッドやエアコン、テレビなどが備わっており、馴染みの写真や飾り物を置くなど自分好みの空間作りがされ、居心地よく過ごせるようになっている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	建物内はバリアフリーで、各所に手擦りを設置している。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。			○	バリアフリー化され移動しやすい環境であり、居室のドアには果物の写真が貼られて部屋をわかりやすくしている。鈴のついた飾り物を取り付けて目印にするなどの工夫もみられ、利用者が安全に自立した生活が送れるようにしている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	常に環境整備を行い、動線には物を置かないよう心掛けている。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌、本は、いつでも自由に見られるように、ホールの棚に置いている。掃除道具や趣味の物は、所定の所に置いているが、利用者さんが希望すれば、いつでも用意できるようにしており、日々の会話や態度で、感じられるように努めている。裁縫道具とポットは危険な場合があるので、事務所に置いている。	○				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	基本ユニットの入り口には、鍵をかけていない。やむを得ず職員の目が届かない状況の時や利用者さんが落ち着かない時だけ施錠している。居室は、鍵はかけていない。	◎	◎	○	職員は玄関などの出入口に施錠することの弊害について理解しており、玄関などは施錠されておらず、自由に出入りすることができる。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時等に家族さんと話し合いをしている。入居時の落ち着かない時ややむを得ない時以外は、施錠があたり前にならないように努めている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	入口はやむを得ない時以外は施錠はしていない。ユニット間は、施錠をしないで自由に行き来できるように配慮している。外部との出入り口には人が通るとチャイムが鳴るようになっており、鳴ったらスタッフがその都度確認している。	○				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	カルテに、フェイスシートを入れており、病気や留意事項が一目でわかるようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の様子をカルテに記載している。毎日、バイタルチェックをし温度表にグラフ化している。異常があれば看護師や医師に相談している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	訪問看護が併設しており、かかりつけの医師による往診も月2回あり、訪問看護師に同行してもらっている。異状時や気になることがあれば、相談し、協力してくれている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	利用者さんの受診状況等は、カルテに記載している。状態に応じて、協力病院で受診が行えるようになっている。また、本人さんや家族さんの希望を大切にし、馴染みのかかりつけ医での受診も行っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入居時に本人さん、家族さんと話し合いを持ち、柔軟に対応をしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診や通院が必要な時は、家族さんと話し合いをしている。また、受診後は、その都度、家族さんに結果を報告し、カルテにも記載している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時は、介護要約で情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	主治医、病棟部長、ケースワーカーとの連携を持ち、退院時の受け入れ状態を整えるように努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	普段よりケースワーカーとのかかわりを持ち、医療機関の勉強会に参加するなど関係づくりに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護が併設しており、看護師が利用者さんと関わる時間も、相談もしている。情報や気付きは常に看護師に報告しており、健康管理や医療面でも協力してもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	異常時や緊急時の時は、いつでも相談している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	カルテに処方箋を入れている。変化のある時は、申し送り時に伝えている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬袋には、名前、日にち、いつ内服するかを記入しており、仕分けする時、内服する時、内服した後も確認するようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	医師や看護師には、月2回の往診時に伝えている。家族さんにも面会時や、電話で伝えている。				

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態の変化に合わせて、その都度、本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、確認もしている。現時点での緊急時の対応についての確認書をカルテに入れている。	/	/	/	看取りに関する指針、延命処置に関する意思確認書を準備し、利用者や家族に同意を得ている。利用者や家族の考えを聞き取り、常に確認を取りながら医師など関係者を交え話し合い、方針を共有している。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	○	◎	/		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	併設の訪問看護師への相談、協力を得て、職員ともよく話し合っている。	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	代表、訪問看護師と共に取り組んでいる。	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族さんの思いを大切に、家族さんの気持ちを理解して、誠実に対応している。	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。	/	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。ノロウイルス等での汚物処理の仕方については、マニュアルカードを作っており、汚物処理セットも用意している。	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	保健所や行政の勉強会などがあれば、参加している。感染症発生状況も情報もインターネットなどを通じて早く取り入れるようにしている。	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症発生状況や情報はインターネットなどを通じて早く取り入れ、早めに対応を取るよう努めている。	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	洗面所には、手洗いの手順を置いており、薬用ハンドウォッシュとビビスコール、ペーパータオルを設置している。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時にはゆつくと過ごしてもらい、生活状況の説明をしている。状態の変化時には、随時報告している。行事などもできるだけ参加してもらるように努めている。	/	/	/	家族に手紙や年賀状を出してつながりを持つようしており、家族会や運営推進会議への定期的な参加や、月間の行事予定を見て来てくれる家族が多い。また、家族から手紙や暑中見舞いなどが利用者あてに届いた時には電話をして話すなどの援助をしている。家族会や運営推進会議の際に、事業所の運営上の出来事や経過などについて報告をしているが、一部の家族の理解が得られていないため、全ての家族の理解が得られるよう報告方法などの工夫が望まれる。家族の面会時には、職員が必ず声かけをして利用者の日頃の様子を伝え、家族は気軽に相談している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族さんがいつでも気軽に訪問してもらえるような雰囲気作りを心掛けている。小まめに生活状況や体調の変化などを伝えている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事などには、出来るだけ利用者さんと一緒に過ごしてもらえるように参加の呼びかけをしたり、行事の内容を掲示板や社内報で報告するようにしている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	利用者さんのホームでの生活を手紙でお知らせしている。その時に写真も添えている。又、社内報も送付している。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族さんや利用者さんの思いを本音が聞けるように努め、話し合ったり相談して対応をしている。運営推進会議や家族会などを開催して、家族さんからの意見を聞いて改善していつている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時に生活状況の報告や体調の変化を伝え、職員も一緒に会話の中に入ってコミュニケーションをとるようにしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議や家族会などで報告をしたり、日頃の生活をスライドショーで見てもらっている。新規採用があれば紹介している。	/	x	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議や家族会などでは、家族同士でお話をする機会を持ってもらっている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時に説明をするようにしている。その後も必要時において話し合いをしている。職員は社内研修にて、虐待および身体拘束についての勉強会をしている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族さんがいつでも気軽に声を掛けてもらえるような雰囲気作りを心掛けている。面会時には、生活状況や体調の変化などを伝えている。又、必要に応じて電話でも伝えている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約等の変更のある時は、必ず、理解と納得が得られるように具体的に説明をして承してもらっている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の時も利用者さん、家族さんに決定過程を明確にして納得が得られるように具体的に説明をして承を得ている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時及び料金改定時には、文書で示し、家族会の開催時等に説明し同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議に参加してもらったり、イベントに招待したり、招待して頂いたりしながら、理解をはかっている。	/	◎	/	近くで行われるお花見会や運動会に出かけることや、お祭りのだんじりが立ち寄り祭りの雰囲気を楽しむことで地域交流ができています。また、近所の保育園児、ボランティア団体との交流もある。認知症カフェを建物内で行い、地域の方々が参加する活動を長年継続するなど、地域とのネットワークづくりに努めているが、地域住民の理解が不十分なため、今後は地域からの理解が十分得られるようなネットワークづくりの構築に取り組んで欲しい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	市の相談員、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントにも参加している。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっている。又、月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	認知症カフェに参加して下さっているボランティアの方の支援が増えている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	認知症カフェもあり、気軽に立ち寄ってくれていると思う。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	ホームの周りに民家はないが、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントに参加させてもらっている。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近所の保育園や事業所との交流があり、観覧会や運動会イベントに招待してくれたり、訪問してくれている。又、認知症カフェに来てくれるボランティアの方が、コンサートを開いたり、手品をしてくれたりしている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域のイベントに参加したり、ホーム内でも他のユニットや、デイサービスに遊びに行ったりしている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近所の保育園や事業所との交流がある。月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。運営推進会議や避難訓練時に警察や消防の方に来てもらっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	参加者が、参加しやすいように年間行事を立てて案内しており、参加もしてくれている。	○	/	◎	運営推進会議は利用者や家族、保育園、警察署、民生委員、市職員など、多くの参加者で構成されている。グループでの意見交換の時間を取り、参加者からの意見を得やすい仕組みができており、得られた意見は、今後の運営のため話し合いの場を設け、サービス向上に活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者さんのサービスの実績や評価の取り組みなどは、その都度、報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で出された意見や提案などは、参加者に報告書を提出している。状況や結果は報告できていないこともあるが、事業所内全体で、改善するようになっている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマによって警察官、消防員など様々な方に参加してもらえるように努めている。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	参加者には、議事録を郵送している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は、利用者さん一人一人が笑顔で穏やかに生活を送ってもらえるようにとの思いを持って、日々取り組んでいる。朝の申し送りでも共有できるようにスタッフ全員で理念を復唱している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各ユニットも事務所には、理念や目標を掲げている。パンフレットにも記載している。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	社内勉強会や実技研修は、毎月開催している。勤務年数に応じての研修もしている。	/	/	/	社内勉強会や実技研修会を毎月実施し、新人研修、勤務経験に応じた研修などが実施されている。職員は年1回ストレスチェックを受けられるほか、必要に応じて医療機関で相談できる体制を整え、ストレス軽減に努めており、職員が働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月、社内研修や勉強会を開催しており、勤務年数に応じての研修もしている。又、資格取得に対しての支援もしている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は、管理者や個々の職員の努力や勤務状況を把握し、その都度話し合う機会をもっている。資格取得に対しての支援もしており、やりがいや向上心を持って働けるような環境づくりに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	西条市の連絡会に参加したり、相互研修に参加して、サービスの質の向上に努めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年に1度、ストレスチェックをして、その結果を通して対応している。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。	/	/	/	社内勉強会において虐待防止に関する研修を年1回行い、さらに身体拘束に関する検討委員会があり、毎月検討する時間を設けており、職員は不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順などについて理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎朝の申し送り時や部署会などで話す機会を持っている。また、いつでも話やすい雰囲気づくりを心掛けている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。利用者さんの内出血や表皮剥離などの異状を発見した時は、事故報告書を書いてもらい、検討している。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	出勤時には、職員の顔色や表情などの確認をしている。又、お互いが注意したり相談できる雰囲気作りにも努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	職員は、社内研修や勉強会で理解し、日頃から身体拘束に対する意識を高めている。家族さんともその都度、よく話し合うように努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中でも確認するように努めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で、その状況に応じての支援ができるように努めている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	その都度、必要に応じて、連携を取って対応をしている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応についてのマニュアルがあり、勉強会もしている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	社内研修や勉強会などで理解しており、実技の勉強会もしている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故発生時には、速やかに事故報告書を書いてもらっている。毎月ヒヤリハットを書いてもらい、毎月の職員会議で検討している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故発生時には、事故報告書に基づき、朝の申し送り時に確認をしている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情の受付窓口を設けており、苦情があった場合は、代表や管理者に報告している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情報告書に記入し、必要時には、市に報告相談をしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情のある時は、速やかに対応をして、前向きな話し合いと改善ができるように努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	利用者さんにも運営推進会議に参加してもらって、意見や要望を言ってもらっている。又、日頃から、何でも言いやすい雰囲気作りに努めている。	/	/	○	運営推進会議や家族会の場で意見を聞く機会があるほか、普段の利用者同士の会話の中から本音の意見を得ることが多く、職員は常に話を聞き取ることに注意を払っている。家族からの意見は、運営推進会議でもらっている。家族会は年1回実施し、家族だけで話し合える時間も設け、教えてもらっている。管理者は、職員からの意見は朝の申し送りなどで聞き、日々の業務の中でも話し合う機会を設けて聞いており、常にサービス向上につながるよう検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	事業所の相談窓口を設けており、運営推進会議や個別にも伝えやすいように努めている。	○	/	◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族会や、運営推進会議などで伝えている。又、普段から気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	定期的に各ユニットを回って、利用者さんや職員に声を掛けてくれている。又、その都度意見や要望に対応してくれている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	朝の申し送りや、職員会議を利用して検討をしている。又、必要時には、代表にも参加してもらっている。	/	/	○	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	必要に応じて、朝の申し送り時を利用して、出来るだけ全員で確認をするようにしている。				事業所内での自己評価は毎年行い、定期的な見直しの機会を持って業務改善につなげている。運営推進会議でサービス評価の結果を伝えているが、その後の取組みに関する成果について十分な聞き取りができていない。今後は、取組みに関する定期的な意見交換が実施されることを期待したい。	
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。					
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。					
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議や家族会などで報告して、意見や意向を伺っている。	○	◎	△		
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	毎月の職員会議で確認をするようにしている。					
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成しており、社内研修や勉強会で学ぶ機会がある。年に1回市の危機管理課にお願いして勉強会を開催している。				あらゆる場面を想定し、内容の違う訓練を毎月行っている。法人内で災害に対する相互協力体制を作り上げ、安全確保のため他のグループホームへの移動や、他のグループホームから受け入れる物資を融通するなど、シミュレーションを実施し、緊急災害時の協力支援体制を整えている。	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	毎月、色々な場面を想定して避難訓練を実施している。年2回消防署員の立会での訓練をし指導してもらっている。					
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	年に2回安全パトロールをして、消火設備や避難経路、非常用の食料や備品の確認をしている。外部に依頼して消防設備の点検も年2回行っている。					
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署とは、定期的な連携を取って、避難訓練に立ち会ってもらったり、緊急時の対応について実技指導をしてもらっている。		△	◎		○
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	災害時を想定した地域のネットワークには、代表が積極的に参加してくれている。消防や警察の方とは、運営推進会議にも参加してもらっており、その都度、相談や指導をもらっている。同一事業所内では、協力して災害対策に取り組んでいる。					
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	市と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。毎月、認知症カフェを開催したり、運営推進会議でもミニ介護講座を取り入れている。高校の授業で講演にも行っている。				関係機関と協力しながら地域の介護や福祉に関する総合相談窓口として様々な相談を受けている。認知症カフェを行い、介護に関連する研修生の受け入れや認知症サポーターの養成などにも取り組んでおり、活動はひよこ通信で報告している。	
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	毎月の認知症カフェ開催時に相談支援を行っている。又、いつでも相談支援ができるように努めている。		○	○		
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	毎月、認知症カフェを開催しており、ボランティアの方が、コンサートを開催してくれたり、手品やよさこい踊りなどを披露してくれている。					
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	実践者研修やリーダー研修などで実習生の受け入れをしている。令和1年7月からフィリピンからの実習生を受け入れている。					
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域のボランティアや市の相談員、学校、保育園、事業所、医療機関と交流があり、イベントにも参加している。年1回、夏祭り大会を開催し、地域の方にも参加してもらっている。			○		